

国語国文学科専門科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放							
基幹科目	10010		国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養							
	10020		国語学概論	②	30	1	前期	高橋 永行	○		教養							
	10060		古典文学史	2	30	1・2	前期	佐々木紀一	○		教養							
	10070		近現代文学史	2	30	1・2	後期	岡 英里奈	○		教養							
基礎科目	共通		古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原 真代	○	本年度開講せず 本年度開講せず								
			古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原 真代										
			古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤 奈美										
			古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤 奈美										
			古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一										
			古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一										
			近現代文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岡 英里奈										
			近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岡 英里奈										
			近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井 瞳良										
			近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井 瞳良										
			国語学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	山本 淳										
			国語学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	山本 淳										
			国語学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	高橋 永行										
			国語学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	高橋 永行										
	10181		論理と表現	2	30	1・2	前期	今井 瞳良	②	いずれか一つ履修	教養							
	10191	10193	国語表現法A	2	30	1	前期	高橋 永行										
	10191	10194	国語表現法A					山本 淳										
	10192	10195	国語表現法B	2	30	1	後期	高橋 永行										
	10192	10196	国語表現法B					山本 淳										
	10192	10196	国語表現法B	2	30	1	後期	山本 淳	②	いずれも国語表現法Aを既修のこと								
	日本古典文学			10211 古典文学講読Ⅰ	2	30	1・2	集中	千野 裕子	○	前期開講（8～9月）							
				10221 古典文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美									
				10231 古典文学講読Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一									
				10241 古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	()									
				10251 古典文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美									
				10261 古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一									
10281 古典文学特講Ⅰ				2	30	1・2	前期	岩原 真代										
10291 古典文学特講Ⅱ				2	30	1・2	後期	()										
10291 古典文学特講Ⅲ				2	30	1・2	前期	佐々木紀一										
日本近現代文学						10411 近現代文学講読Ⅰ	2	30	1・2				後期	千葉 正昭	○			
						10421 近現代文学講読Ⅱ	2	30	1・2				前期	今井 瞳良				
						10431 近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2				後期	岡 英里奈				
	10441 近現代文学作品研究Ⅱ	2	30			1・2	後期	今井 瞳良										
	10451 近現代文学特講Ⅰ	2	30			1・2	前期	千葉 正昭										
	10461 近現代文学特講Ⅱ	2	30			1・2	後期	今井 瞳良										
国語学			10511 日本語文化論Ⅰ	2	30	1・2	前期	高橋 永行	○	前期開講（8～9月）								
			10521 日本語文化論Ⅱ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈										
			10531 国語資料講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	山本 淳										
			10541 国語資料講読Ⅱ	2	30	1・2	後期	山本 淳										
			10550 国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳										
			10560 日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣										
漢文学			10600 漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○									
			10611 漢文学講読	2	30	1・2	前期	渡部東一郎										
			10621 漢文学作品研究	2	30	1・2	後期	渡部東一郎										
			10631 漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎										
			10650 漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎										
10650 漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎													
展開科目	共通		古典文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岩原 真代	○	原則として同一科目名のA Bをセット で（AとBとで担当者が同一のもの を）履修すること								
			古典文学演習ⅠB	2	30	2	後期	岩原 真代										
			古典文学演習ⅡA	2	30	2	前期	佐々木紀一										
			古典文学演習ⅡB	2	30	2	後期	佐々木紀一										
			近現代文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岡 英里奈										
			近現代文学演習ⅠB	2	30	2	後期	岡 英里奈										
			近現代文学演習ⅡA	2	30	2	前期	今井 瞳良										
			近現代文学演習ⅡB	2	30	2	後期	今井 瞳良										
			国語学演習ⅠA	2	30	2	前期	山本 淳										
			国語学演習ⅠB	2	30	2	後期	山本 淳										
	国語学演習ⅡA	2	30	2	前期	高橋 永行												
	国語学演習ⅡB	2	30	2	後期	高橋 永行												
	図書館文化論演習A	2	30	2	前期	北口己津子												
	図書館文化論演習B	2	30	2	後期	北口己津子												
	教育文化論演習A	2	30	2	前期	村瀬 桃子												
	教育文化論演習B	2	30	2	後期	村瀬 桃子												
	関連科目	共通		10800 書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年				我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養			
				10800 書道（木曜Ⅳ限）								我彦 芳柳						
				10910 伝統文化論	2	30	1・2	前期				石黒 志保				○	後期開講（2～3月） [日]と合同	教養
				10920 有職故実	2	30	1・2	集中				田中 潤						
10930 民俗学概説				2	30	1・2	前期	岩鼻 通明										
10951 山形の郷土資料と文学				2	30	1・2	前期	千葉 正昭										
10952 現代文化論				2	30	1・2	後期	今井 瞳良										
10960 東洋思想				2	30	1・2	前期	小野 卓也										
10970 現代社会と教育問題				2	30	1・2	後期	村瀬 桃子										
11120 11121 古文書学				2	30	1・2	後期	原 淳一郎										
11120 11122 古文書学	山田彩起子																	
11131 古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄	○	[日]「古文書学2」で読替 「古文書学」を既修のこと	教養										
11141 日本古代社会の歴史	2	30	1・2	前期	吉田 欽													
11141 日本中世社会の歴史	2	30	1・2	前期	齋藤 寿樹													
11151 日本近世社会の歴史	2	30	1・2	前期	小林 文雄													
11160 日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎													
11171 視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太													
11171 卒業研究	4		2															

(注)・「○数字」は必修単位、「□」数字は選択必修単位
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（令和4年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放				
基幹科目	10060 10070		国文学概論	②	30	1	後期	佐々木紀一	○		教養 教養 教養 教養				
			国語学概論	②	30	1	前期	高橋 永行	○						
			古典文学史	2	30	1・2	前期	佐々木紀一	○						
			近現代文学史	2	30	1・2	後期	岡 英里奈	○						
基礎科目	共通		古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原 真代	○	原則として同一科目名のA Bをセットで（AとBとで担当者が同一のものを）履修すること					
			古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原 真代							
			古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤 奈美							
			古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤 奈美							
			古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一							
			古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一							
			近現代文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岡 英里奈							
			近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岡 英里奈							
			近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井 瞳良							
			近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井 瞳良							
			国語学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	山本 淳							
			国語学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	山本 淳							
			国語学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	高橋 永行							
			国語学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	高橋 永行							
	10181		論理と表現	2	30	1・2	前期	今井 瞳良	②	いずれか一つ履修	教養				
		国語表現法A	2	30	1	前期	高橋 永行								
		国語表現法B	2	30	1	後期	高橋 永行								
		国語表現法B	2	30	1	後期	山本 淳								
	日本古典文学	10211		古典文学講読Ⅰ	2	30	1・2	集中	千野 裕子	○	前期開講（8～9月）				
		10221		古典文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美						
		10231		古典文学講読Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一						
		10241		古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	()						
		10251		古典文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美						
		10261		古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一						
			古典文学特講Ⅰ	2	30	1・2	前期	岩原 真代							
		10281		古典文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	()						
		10291		古典文学特講Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一						
		日本近現代文学	10411		近現代文学講読Ⅰ	2	30	1・2	後期				千葉 正昭	○	本年度開講せず
10421				近現代文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	今井 瞳良						
10431				近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈						
10441				近現代文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良						
10451				近現代文学特講Ⅰ	2	30	1・2	前期	千葉 正昭						
10461			近現代文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
国語学	10511		日本語文化論Ⅰ	2	30	1・2	前期	高橋 永行	○	前期開講（8～9月）					
	10521		日本語文化論Ⅱ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈							
	10531		国語資料講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	山本 淳							
	10541		国語資料講読Ⅱ	2	30	1・2	後期	山本 淳							
	10550		国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳							
	10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣							
漢文学	10600		漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○						
	10611		漢文学講読	2	30	1・2	前期	渡部東一郎							
	10621		漢文学作品研究	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
		漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎								
	10641		漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎							
	10650		漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
展開科目	共通		古典文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岩原 真代	○	本年度開講せず 本年度開講せず					
		10721		古典文学演習ⅠB	2	30	2	後期				岩原 真代			
		10722		古典文学演習ⅡA	2	30	2	前期				佐々木紀一			
		10731		古典文学演習ⅡB	2	30	2	後期				佐々木紀一			
		10732		近現代文学演習ⅠA	2	30	2	前期				岡 英里奈			
		10733		近現代文学演習ⅠB	2	30	2	後期				岡 英里奈			
		10742		近現代文学演習ⅡA	2	30	2	前期				今井 瞳良			
		10743		近現代文学演習ⅡB	2	30	2	後期				今井 瞳良			
		10751		国語学演習ⅠA	2	30	2	前期				山本 淳			
		10752		国語学演習ⅠB	2	30	2	後期				山本 淳			
		10761		国語学演習ⅡA	2	30	2	前期				高橋 永行			
		10762		国語学演習ⅡB	2	30	2	後期				高橋 永行			
		10782		図書館文化論演習A	2	30	2	前期				北口己津子			
		10783		図書館文化論演習B	2	30	2	後期				北口己津子			
10791		教育文化論演習A	2	30	2	前期	村瀬 桃子								
10792		教育文化論演習B	2	30	2	後期	村瀬 桃子								
関連科目	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養				
		10802	書道（木曜Ⅳ限）					我彦 芳柳							
	10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	石黒 志保	○	後期開講（2～3月） [日]と合同	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養				
	10920		有職故実	2	30	1・2	集中	田中 潤							
	10930		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明							
	10951		山形の郷土資料と文学	2	30	1・2	前期	千葉 正昭							
	10952		現代文化論	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
	10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也							
	10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子							
	11120	11121	古文書学	2	30	1・2	後期	原 淳一郎				}	[日]「古文書学2」で読替 いずれか一つ履修		
	11120	11122	古文書学					山田彩起子							
	11123		古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄				[日]「古文書学3」で読替 「古文書学」を既修のこと			
	11131		日本古代社会の歴史	2	30	1・2	前期	吉田 欽				[日]「日本史概説1」で読替			
	11141		日本中世社会の歴史	2	30	1・2	前期	齋藤 寿樹				[日]「日本史概説2」で読替			
	11151		日本近世社会の歴史	2	30	1・2	前期	小林 文雄				[日]「日本史概説3」で読替			
	11160		日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎				[日]「日本史概説6」で読替			
	11171		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太				[社]と合同			
11010		卒業研究	4		2										

(注)・「○数字」は必修単位、「□」数字は選択必修単位
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学ぶ対象と意義、その範囲、考え始めると難しいのですが、国文学（に限らず文学）とは何か、文学の対象、価値、構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深めましょう。
授業計画	<p>第1回 今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快樂」？）</p> <p>第2回 文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？）</p> <p>第3回 国文学の対象（範囲と価値）</p> <p>第4回 国文学の諸ジャンル</p> <p>第5回 国文学の成立（古典）</p> <p>第6回 国文学の成立（近代文学 - 作家論について）</p> <p>第7回 作家なんて（ ）に入れろ！（1）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評</p> <p>第8回 作家なんて（ ）に入れろ！（2）受容理論、解釈学</p> <p>第9回 作家なんて（ ）に入れろ！（3）記号論、脱構築</p> <p>第10回 作家なんて（ ）に入れろ！（4）精神分析批評</p> <p>第11回 全てを歴史化しろ！（1）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評</p> <p>第12回 全てを歴史化しろ！（2）ニューヒストリシズム</p> <p>第13回 文学の技巧（1）ロッジ『小説の技巧』から（1）</p> <p>第14回 文学の技巧（2）ロッジ『小説の技巧』から（2）</p> <p>第15回 再び（国）文学を読む意味</p>
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は批評の理論、技巧について学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	参考書の廣野さんの著書の精読 作品は指定しませんが、各ジャンルの文学作品を読む
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	知識詰め込みはしません。じっくり考えましょう。皆さんが今後、文学を友として生きていけますように。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	廣野由美子「批評理論入門ー『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） D. ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。さらに深めたい人は、T. イーグルトン『文学とは何か（上）・（下）』（岩波文庫）が良いです。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
高橋 永行			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。		
授業計画	第1回	言語研究とその分野（導入） 言語の機能	
	第2回	現代生活と日本語 1 待遇表現 サツキとメイのセリフから見る日本語の特色	
	第3回	現代生活と日本語 2 位相と役割語 方言	
	第4回	語彙 1 語彙とは	
	第5回	語彙2 語種	
	第6回	語彙3 語彙量と文化	
	第7回	文字表記 文字の体系	
	第8回	漢字とひらがなの成り立ち	
	第9回	カタカナとローマ字の成り立ち	
	第10回	文法 1 文とその構造	
	第11回	文法 2 形態論	
	第12回	日本語の位置 世界の言語と日本語の違い	
	第13回	日本語の系統 言語系統表	
	第14回	言語の種類 言語の構造	
	第15回	課題学習 試験	
授業概要	日本語という言語の個性について、言語生活（方言を含む）、文字表記、語彙、文法、世界の中での日本語の位置という観点から講義します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配付資料を整理して、要点を理解するように努めてください。		
テキスト	『図解日本語』三省堂 2,000円＋税 ISBN 4385362424 さわらび購買部で販売します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは「ことばに対する素朴な疑問」を持つことから始めましょう。 講義終了後に配信される課題は、期限を守り、必ず提出しましょう。 出席入力に使用するPassCodeは講義開始時に提示します。入室が遅れた場合は近くの人から教えてもらってください。		
評価方法	試験30%、課題(Teams配信)60%、授業への参加度10%		
参考文献			
備考	Microsoft teams参加コード(必須)は4月以降に履修者に通知する。 出席は学務システムを使用する。 出張等の事情により計画順序の変更もある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代から近世にかけての国文学史を概観しながら、名作・名文を読解する。古典文学史を通して、日本人の精神史をたどり、各作品の主題と意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 古典文学史概説</p> <p>第2回 上代文学（神話の世界、古事記）</p> <p>第3回 上代文学（日本書紀、風土記）</p> <p>第4回 上代文学（万葉集1）</p> <p>第5回 上代文学（万葉集2、懐風藻ほか）</p> <p>第6回 中古文学（概観、漢詩文）</p> <p>第7回 中古文学（和歌、古今和歌集）</p> <p>第8回 中古文学（八代集、歌合、歌論）</p> <p>第9回 中古文学（前期物語、源氏物語）</p> <p>第10回 中古文学（後期物語、歴史物語）</p> <p>第11回 中古文学（日記文学、随筆）</p> <p>第12回 中古文学（説話、歌謡）</p> <p>第13回 中世文学（和歌、連歌）</p> <p>第14回 中世文学（物語、説話、芸能）</p> <p>第15回 近世文学（小説、俳諧）</p>
授業概要	テキストに沿って、上代から近世に至る文学作品を、歴史的背景を確認しながら年代順に読解、紹介していきます。文学作品の相互の関係性と受容史を意識しながら進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文学作品がどのように成立し、また、後世の作品にどのような影響を及ぼしたのかを意識しながら文学史を理解して下さい。また、藤原定家撰の『小倉百人一首』は、上代から中世にかけての歌人・文人の名歌が時代順に配列され、文学史の流れを確認できます。是非暗唱して下さい。
テキスト	秋山虔・三好行雄 編著『原色 新日本文学史（増補版）』文英堂、715円、ISBN：978-4-578-27192-5
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典文学史を通して日本とは何かを考えます。古典を知るとは現代に生きる我々自身を考えることに通じます。古典の名作、名文に親しむことで日本人の精神のルーツと変遷を確かめてみて下さい。
評価方法	期末試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。（期末試験には『百人一首』の暗唱を含む。）
参考文献	久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史』全10巻、岩波書店 加藤周一『日本文学史序説 上・下』（加藤周一著作集4・5）、筑摩書房 久保田淳編『日本文学史』おうふう、1997年 秋山虔・三好行雄編『新日本文学史』文英堂、2017年 ほか。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
岡 英里奈			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本近現代文学の歴史について、小説作品を中心に概観する。各時代に生まれた文学が、何を問題とし、どのような表現を目指したのか、その大まかな流れを掴む。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・近世から近代へ</p> <p>第2回 近代の出発</p> <p>第3回 「社会」と「自然」</p> <p>第4回 自然主義文学の成立</p> <p>第5回 鴎外・漱石と耽美派の文学</p> <p>第6回 『白樺』と『青鞥』</p> <p>第7回 芥川文学の変遷と「私小説」・「心境小説」</p> <p>第8回 プロレタリア文学運動の隆盛</p> <p>第9回 新感覚派とモダニズム文学の系譜</p> <p>第10回 転向と文芸復興、戦時下の文学</p> <p>第11回 戦後文学の展開高</p> <p>第12回 度経済成長期の文学①</p> <p>第13回 高度経済成長期の文学②</p> <p>第14回 ポスト・モダンの文学</p> <p>第15回 戦争と格差／ディストピアを超えて</p>
授業概要	テキストに沿って主要な作家名や作品名、文芸思潮、文学結社などを押さえつつ、具体的な作品を適宜抜粋して紹介する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で言及した作品を自主的に読む。
テキスト	秋山虔・三好行雄編著『新日本文学史』文英堂、650円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文学史の授業はどうしても抽象的な思潮や概念の説明が主となりますが、なるべく具体的な作品のおもしろさを伝えられるように努めます。授業で言及する作品のほとんどは、合同研究室や図書館に置いてあります。ぜひ多くの作品を、実際に手にとって読んでみてください。
評価方法	期末試験（90％）、授業への参加度（10％）で評価する。
参考文献	<p>中村光夫『日本の近代小説』（1954年、岩波新書）、『日本の現代小説』（1968年、岩波新書）</p> <p>加藤周一『日本文学史序説』上下（初1967年、ちくま学芸文庫）</p> <p>奥野健男『日本文学史 近代から現代へ』（初1970年、中公新書）</p> <p>鈴木貞美『入門 日本近現代文芸史』（2013年、平凡社新書）</p> <p>安藤宏『日本近代小説史』（2015年、中公選書）</p> <p>斎藤美奈子『日本の同時代小説』（2018年、岩波新書）</p> <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 古典文学読解ための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書、索引、関連図書などを使って調査する方法を身につける。 3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について) 『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」	
	第2回	『伊勢物語』概説②『伊勢物語』と『古今和歌集』」「成立論について」	
	第3回	『伊勢物語』講読「初冠」(初段) ※「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。	
	第4回	『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)※(第6回の資料提出)	
	第5回	『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段)	
	第6回	『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段) ※受講生全員で分担(語釈・現代語訳)して発表	
	第7回	『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段) ※受講生全員で内容について議論	
	第8回	『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段)	
	第9回	『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段第八段) ※「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答の形式で行う。以下同じ。	
	第10回	『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第九段)「東国章段」①(第十段)	
	第11回	『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十一段～第十三段)	
	第12回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第十四段第十五段)	
	第13回	『伊勢物語』演習「二条后後日譚」(第二十六段第二十九段)	
	第14回	『伊勢物語』演習「狩使章段」(第六十九段第七十段)	
	第15回	『伊勢物語』演習「伊勢国章段」(第七十一段第七十二段第七十五段)	
授業概要	『伊勢物語』の概要について学んだ後、各段を読んでいきます。発表担当者が調べ、考察したことについて報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進める予定です。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、レジュメを作成すること。担当以外の学生はその段をあらかじめ読み、内容を理解しておくこと。		
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）ISBN9784044005016税込 価格792円		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈、『古今和歌集』との比較など、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってもらいたいと思います。毎時全員に発言を求め、感想カードを提出してもらいますので、予習して授業に臨んで下さい。		
評価方法	発表・討論における発言・提出物・出席（80％）、レポート（20％）		
参考文献	授業中に指示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典文学読解ための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書、索引、関連図書などを使って調査する方法を身につける。 3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。 4. 自分が考察したことをレポートにまとめる方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 『伊勢物語』 講読 「惟喬親王章段」①(第八十二段)</p> <p>第2回 『伊勢物語』 講読 「惟喬親王章段」②(第八十三段・第八十五段)</p> <p>第3回 『伊勢物語』 演習 「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など)</p> <p>第4回 『伊勢物語』 演習 「梓弓」(第二十四段)</p> <p>第5回 『伊勢物語』 演習 「むかしの若人」(第四十段)</p> <p>第6回 『伊勢物語』 演習 「行く蛩」(第四十五段)</p> <p>第7回 『伊勢物語』 演習 「花橘」(第六十段)</p> <p>第8回 『伊勢物語』 演習 「つくも髪」(第六十三段)</p> <p>第9回 『伊勢物語』 演習 「二条后章段」(第七十六段・第九十五段)</p> <p>第10回 『伊勢物語』 演習 「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段)</p> <p>第11回 『伊勢物語』 演習 「さらぬ別れ」(第八十四段)</p> <p>第12回 『伊勢物語』 演習 「絵かく女」(第九十四段)</p> <p>第13回 『伊勢物語』 演習 「斎宮章段」(第百二段・第百四段)</p> <p>第14回 『伊勢物語』 演習 「陸奥国章段」(第百十五段・第百十六段)</p> <p>第15回 『伊勢物語』 演習 「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)</p>
授業概要	発表担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。自分の解釈、意見を説得的に述べるには、何を根拠にあげればよいのか、どの表現・語句に注目して論を展開すればよいのか、実践の中で学んでいくことを目指します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、テーマを決めて考察し、レジメを作成すること。担当者以外の者はその段をあらかじめ読み、内容を理解し、自分なりの解釈を述べられるようにしておくこと。
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）ISBN9784044005016 税込価格792円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の「男」はどのような人物と捉えられるか。「“男”の一代記」に当てはまらない段をどう考えるか。和歌の解釈と物語の関係をどう考えるか……など、各段の解釈にとどまらず、『伊勢物語』という物語にせまって欲しいと思います。毎時全員に発言を求め、感想カードを提出してもらいますので、予習して授業に臨んで下さい。
評価方法	発表・討論における発言・提出物・出席（60%）、年度末レポート（40%）
参考文献	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。
授業計画	<p>第1回 導入 藤原公重と『風情集』述懐百種について</p> <p>第2回 古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について</p> <p>第3回 古典和歌の世界、修辞について</p> <p>第4回 和歌の歴史1（万葉～平安時代）</p> <p>第5回 和歌の歴史2（鎌倉～江戸時代）</p> <p>第6回 受講生の発表1（古今集より）</p> <p>第7回 受講生の発表2（和泉式部集より）</p> <p>第8回 受講生の発表3（山家集より）</p> <p>第9回 受講生の発表4（風情集より）</p> <p>第10回 受講生の発表5（風情集より）</p> <p>第11回 受講生の発表6（風情集より）</p> <p>第12回 受講生の発表7（風情集より）</p> <p>第13回 和歌の詠作1</p> <p>第14回 和歌の詠作2</p> <p>第15回 和歌の詠作3</p>
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、次に入門として『古今集』他、また『風情集』の他の箇所より、一般的な和歌を取り上げます。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更に王朝風和歌を詠んでみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらち山かくては何と生まれこしちぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵なお歌が続出です♪。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、ⅢAに継いで和歌、古典の読解を発展させます。
授業計画	<p>第1回 『風情集』述懐百種・古典和歌の世界、修辞について（復習）</p> <p>第2回 受講生の発表1（風情集535～545番、以下同）</p> <p>第3回 受講生の発表2（風情集546～556）</p> <p>第4回 受講生の発表3（風情集557～567）</p> <p>第5回 受講生の発表4（風情集568～578）</p> <p>第6回 受講生の発表5（風情集579～589）</p> <p>第7回 受講生の発表6（風情集590～600）</p> <p>第8回 受講生の発表7（風情集601～611）</p> <p>第9回 受講生の発表8（風情集612～622）</p> <p>第10回 受講生の発表9（風情集623～633）</p> <p>第11回 受講生の発表10（風情集633～634）</p> <p>第12回 和歌詠作1</p> <p>第13回 和歌詠作2</p> <p>第14回 和歌詠作3（公重風に）</p> <p>第15回 和歌詠作（公重風に）</p>
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。本授業では独特のレトリックに満ちた、問題の百首に取り掛かります。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更にⅢAに引き続き王朝風、公重風和歌を各自つくります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	高校までの教科書に登場した作品や、入試問題に採用された作品を対象に、「研究」として文学作品を読むとはどういうことかを学ぶ。授業を通して、文学テキストを分析的に読むための基礎力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 前期ガイダンス テキスト、授業の方法について説明。各担当の振り分け。</p> <p>第2回 文学を研究するとはどういうことか① 芥川龍之介「羅生門」を読み直す</p> <p>第3回 文学を研究するとはどういうことか② 芥川龍之介「羅生門」を読み直す</p> <p>第4回 文学を研究するとはどういうことか③ 中島敦「山月記」を読み直す</p> <p>第5回 文学を研究するとはどういうことか④ 中島敦「山月記」を読み直す</p> <p>第6回 文学を研究するとはどういうことか⑤ 夏目漱石「こころ」を読み直す</p> <p>第7回 文学を研究するとはどういうことか⑥ 夏目漱石「こころ」を読み直す</p> <p>第8回 文学を研究するとはどういうことか⑦ 夏目漱石「こころ」を読み直す</p> <p>第9回 文学を研究するとはどういうことか⑧ 夏目漱石「こころ」を読み直す</p> <p>第10回 テキスト分析と「問い」を持つこと①</p> <p>第11回 テキスト分析と「問い」を持つこと②</p> <p>第12回 テキスト分析と「問い」を持つこと③</p> <p>第13回 テキスト分析と「問い」を持つこと④</p> <p>第14回 テキスト分析と「問い」を持つこと⑤</p> <p>第15回 今期のまとめ</p>
授業概要	履修者による発表と、それを踏まえた小グループや全体でのディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外の人も、対象作品や資料を事前に読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理してくる
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習形式なので、皆さんの発表や議論によって授業がつくれます。積極的な発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容、質疑などの発言によって総合的に評価する。
参考文献	日本近代文学館編『教科書と近代文学』秀明大学出版会、2021年 石原千秋『大学受験のための小説講義』筑摩書房、2002年 その他、授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	前半は、近現代の短篇小説の読解を行う。作品内の語句や事象について細かい注釈をつけること、前期で学んだ内容を復習しながら自分なりの読解や考察を提示すること、そしてそれを踏まえ履修者全員で議論することを通して、文学研究に必要な調査力や考察力を磨く。後半は前半の学習をもとに、自分なりの問題意識を持つ方法や、考察や調査の結果をどのように文章として表現するか等、文学テキストを論じるための実践力を鍛えることを目指す。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス テキスト、授業の方法、発表準備の方法、資料の探し方について説明。報告者の選定。</p> <p>第2回 同時代小説を読む① 対象作品は受講者に選んでもらいます。</p> <p>第3回 同時代小説を読む②</p> <p>第4回 同時代小説を読む③</p> <p>第5回 同時代小説を読む④</p> <p>第6回 同時代小説を読む⑤</p> <p>第7回 同時代小説を読む⑥</p> <p>第8回 同時代小説を読む⑦</p> <p>第9回 同時代小説を読む⑧</p> <p>第10回 文学テキストの論じ方① 文学テキストの論じ方について、批評文や論文を読むことを通して学びます。</p> <p>第11回 文学テキストの論じ方②</p> <p>第12回 文学テキストの論じ方③</p> <p>第13回 個人研究発表① 受講者それぞれの関心に基づき、研究発表を行ってもらいます。</p> <p>第14回 個人研究発表②</p> <p>第15回 個人研究発表③</p>
授業概要	履修者による発表と、それを踏まえた小グループや全体でのディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外の方も、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理して行く。
テキスト	授業中に指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいです。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う〈読み〉になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容（30%）、質疑などの発言（20%）、レポート課題（50%）によって評価する。
参考文献	斎藤美奈子『日本の同時代小説』岩波新書、2018年 その他、授業中に適宜指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で現代社会とメディアに関する文献と論文、小説を読みます。到達目標は以下の二つです。①現代社会を読みとく視座と文学作品の読み方を学ぶ。②議論に参加することによって自身の考えを発信する力と他者の考えを聞く力を身につける。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	プレゼンテーションを学ぶ	
	第3回	トーク①	
	第4回	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』①：報道写真、広告	
	第5回	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』②：表紙、インフォグラフィック	
	第6回	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』③：広報、論説文	
	第7回	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』④：演説文、ニュース記事	
	第8回	文献講読：小林真大『生き抜くためのメディア読解』⑤：評論文、マニュアル	
	第9回	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する	
	第10回	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する	
	第11回	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する	
	第12回	文献講読：受講者の関心に合わせてテキストを選定する	
	第13回	村田沙耶香『コンビニ人間』を読む	
	第14回	宇佐美りん『推し、燃ゆ』を読む	
	第15回	トーク②	
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、トークでは気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。		
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（20%）、期末レポート（30%）		
参考文献	演習の中で適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で芥川龍之介「羅生門」を読んでいくとともに、作品分析について学びます。授業の後半では、各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学作品の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：論文の書き方を学ぶ</p> <p>第2回 作品分析を学ぶ①：なぜ分析するのか</p> <p>第3回 作品分析を学ぶ②：どう記述するのか</p> <p>第4回 映画『羅生門』（1950年）を見る</p> <p>第5回 芥川龍之介「羅生門」とその論点①</p> <p>第6回 芥川龍之介「羅生門」とその論点②</p> <p>第7回 芥川龍之介「羅生門」とその論点③</p> <p>第8回 芥川龍之介「羅生門」とその論点④</p> <p>第9回 映画『羅生門』とその論点①</p> <p>第10回 映画『羅生門』とその論点②</p> <p>第11回 個人研究発表①</p> <p>第12回 個人研究発表②</p> <p>第13回 個人研究発表③</p> <p>第14回 個人研究発表④</p> <p>第15回 個人研究発表⑤</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。個人研究では、各自で作品を選んで研究してもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	芥川龍之介の生涯や他の小説なども調べてみてください。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに関心を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの軸に据えて、古典文学の実文章に触れ、古典文法の基礎的事項を十分に理解し、古典を「読む」技術を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古典の仮名遣いについて確認する</p> <p>第2回 日本文学史の時代区分を知る</p> <p>第3回 古典文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古文学）</p> <p>第4回 古典文学史の流れを大掴みに把握する（中世・近世文学）</p> <p>第5回 古典籍に関する諸資料(参考図書)を使って古典作品の概要を調べる</p> <p>第6回 辞書の構成について理解する</p> <p>第7回 古語を調べる</p> <p>第8回 吉田兼好と『徒然草』について知る</p> <p>第9回 『徒然草』の章段を読む</p> <p>第10回 清少納言の活躍した時代について</p> <p>第11回 『枕草子』執筆の動機について</p> <p>第12回 『枕草子』の本文系統について</p> <p>第13回 『枕草子』類聚章段および随想的章段を読む</p> <p>第14回 『枕草子』日記的章段を読む</p> <p>第15回 『枕草子』と『徒然草』（まとめ）</p>
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品、とくに『枕草子』『徒然草』といった随筆を中心教材とし、文体的な特徴を掴む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください。授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください。
テキスト	特段指定するテキストはありません。高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください。電子辞書等でも差し支えありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校生の時に、あまり古典に馴染みが無かった方を対象に授業展開する予定です。作業中心に授業を進めることが受講生の理解に結びつくという傾向が授業評価から見て取れますので、できる限り作業を取り入れて進めたいと思います。
評価方法	授業への参加度(50%)と提出物を頻繁に課しますのでその成果(50%)とを併せて総合的に評価します。
参考文献	小田勝『読解のための古典文法教室』（和泉書院） 安良岡康作『徒然草全注釈』（角川書店） 田中重太郎『枕草子全注釈』（角川書店）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、「国語学基礎演習 I A」にて習得した古典文法基礎力を基に、古典を読み深めてゆくことを目標とする。
授業計画	<p>第1回 演習計画 後期演習のためのおおまかな説明をいたします</p> <p>第2回 北村季吟『枕草子春曙抄』について</p> <p>第3回 『春曙抄』本文・傍注・頭注を読む</p> <p>第4回 発表に備えて各自読みの練習をする① 一変体仮名に馴れる (1) 現代に通用する字母一</p> <p>第5回 発表に備えて各自読みの練習をする② 一変体仮名に馴れる (2) 古筆特有の字母一</p> <p>第6回 発表に備えて各自読みの練習をする③ 一注釈部の理解一</p> <p>第7回 発表① 「清涼殿の丑寅の隅の」</p> <p>第8回 発表② 「頭中将そぞろなるそら言にて」</p> <p>第9回 発表③ 「里にまかでたるに」</p> <p>第10回 発表④ 「淑景舎東宮にまゐりたまふほどのことなど」</p> <p>第11回 発表⑤ 「円融院の御はての年」</p> <p>第12回 発表⑥ 「宮に初めてまゐりたるころ」</p> <p>第13回 発表⑦ 「御前に人々あまたもの仰せらるるついでに」</p> <p>第14回 発表⑧ 「大納言まゐりて」</p> <p>第15回 発表⑨ 「僧都の君の御乳母」</p>
授業概要	古典が書かれた時代背景を理解しつつ、江戸時代に作られた『枕草子』注釈書のテキストを字起こししながら、読み進めてゆく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「国語学基礎演習 I A」と同様に、翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください。授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください。
テキスト	「国語学基礎演習 I A」に同じく、特段指定するテキストはありません。高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください。電子辞書等でも差し支えありません。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「国語学基礎演習 I A」の学習内容を承けて、受講生による輪読を主体として授業展開します。授業中の積極的発言(授業内容に関与するものに限って)は大歓迎です。
評価方法	授業への参加度(50%)と演習の成果(50%)とを併せて総合的に評価します。
参考文献	小田勝『実例詳解古典文法総覧』(和泉書院) 田中重太郎『枕冊子全注釈』(角川書店) 萩谷朴『枕草子解環』(同朋舎出版)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。 国語教育の分野を含みます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前期 基本資料の配付とグループ分け Microsoft Teams 使い方</p> <p>第2回 情報発信力を高める 導入 授業展開の方法と教材 イントロダクション 自己紹介</p> <p>第3回 表現の基礎 表記とことばづかい1</p> <p>第4回 表現の基礎 表記とことばづかい2 新聞学習1 紙面構成、記事構成、見出し</p> <p>第5回 新聞学習2 記事の読み解き実習その1</p> <p>第6回 新聞学習3 記事の読み解き実習その2</p> <p>第7回 情報を整理して示す メニューを作る 概要を学ぶ</p> <p>第8回 情報を整理して示す メモを作る</p> <p>第9回 情報を確実に伝える 注意書き1</p> <p>第10回 情報を確実に伝える 注意書き2</p> <p>第11回 情報を正確に伝える 連絡メール</p> <p>第12回 情報を正確に伝える 案内メール</p> <p>第13回 表現の基礎 2 読みやすい文 曖昧文</p> <p>第14回 表現の基礎 2 わかりにくい文</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。テキストと並行して新聞を教材として学びます。ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。どこがおかしいのか、どう直せばよいのかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。4グループ程度に分けます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられるテーマについて、自分の見方や他の人の考え方を整理するように努めてください。
テキスト	『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房 最初の演習時に指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営していかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。
評価方法	演習への参加度・質疑応答の参加度（100%） 筆記試験・個別レポートはありませんが、演習時に課題作成があります。
参考文献	
備考	授業計画の変更がある場合は直接通知します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。国語教育の分野を含みます。国語学基礎演習ⅡA（10171）とともに履修すること。		
授業計画	第1回	後期ガイダンス	
	第2回	授業展開の方法と教材 後期 基本資料の配付	
	第3回	相手に合わせて表現する 敬語1	
	第4回	相手に合わせて表現する 敬語2	
	第5回	配慮して伝える お問い合わせ1	
	第6回	配慮して伝える お問い合わせ2	
	第7回	丁寧に伝える 手紙の書き方1	
	第8回	丁寧に伝える 手紙の書き方2	
	第9回	表現の基礎3	
	第10回	わかりやすい文章1	
	第11回	わかりやすい文章2	
	第12回	企画をアピールする1	
	第13回	企画をアピールする	
	第14回	報告書原稿の作成	
	第15回	報告原稿の完成 まとめ	
授業概要	言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。仮想世界の会話や文書による表現にふれながら、ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。具体的には、「ちょっとおかしいんじゃない」と感じとれる文例を参照し、どこがおかしいのか、どう直せばよいかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。4グループ程度に分けます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の演習で取り上げられるテーマについて、自分の見方や他の人の考え方を整理するように努めてください。		
テキスト	『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営していかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。		
評価方法	演習への参加度・質疑応答の参加度（100%） 筆記試験・個別レポートはありませんが、演習時に課題作成があります。		
参考文献			
備考	授業計画の変更は直接通知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章表現の基礎であるパラグラフライティングを学びます。到達目標は以下の二つです。①論理的な文章を書く力を身につける。②論理的思考力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 なぜ文章は「読めない」のか</p> <p>第3回 パラグラフライティング：トピックセンテンスを考える</p> <p>第4回 パラグラフライティング：パラグラフを完成させる</p> <p>第5回 絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの実践</p> <p>第6回 絵画を例にパラグラフを書いてみる：ライティングの添削と実践</p> <p>第7回 アニメを例にパラグラフを書いてみる</p> <p>第8回 パラグラフを増やす：何を書いてはいけないのか</p> <p>第9回 川端康成『日向』を読んでパラグラフを書く</p> <p>第10回 川端康成『雨傘』を読んでパラグラフを書く</p> <p>第11回 パラグラフを増やす：自分の意見と他人の意見を分ける</p> <p>第12回 『日向』・『雨傘』課題総評</p> <p>第13回 パラグラフを増やす：並べる順番を考える</p> <p>第14回 パラグラフから文章へ</p> <p>第15回 まとめ：最終課題の総評</p>
授業概要	様々な題材を使って文章を書いてもらい、担当教員が添削します（授業中にパソコンかスマートフォンを使用しますが、機器を準備できない場合も対応します）。話し合いの時間も取りますので、論理的に話す練習にもなると思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ネットや新聞などで見かけた気になるニュースを、見出しだけではなく全文読む。
テキスト	プリントを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方的な講義ではなく、ワークを中心に進めるので、積極的に授業に参加して下さい。課題は多いですが、論理的な文章を書く力は必ず役に立ちます。
評価方法	授業への参加（30%）、毎授業での課題の習熟度（70%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	日本語音声学の入門講座です。音声表現に関して基礎知識の定着と実践力を養成します。「聞く(聴覚音声学)」と「話す(調音音声学)」領域を学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 音声学とは</p> <p>第2回 言葉の単位 音感実習</p> <p>第3回 調音音声学 口腔断面図 課題</p> <p>第4回 調音音声学2 課題の確認</p> <p>第5回 調音音声学3 確認テスト</p> <p>第6回 日本語の発音 母音の発声 日本人の口の開き方と英語の基本母音</p> <p>第7回 調音法 調音音声学</p> <p>第8回 音声器官の復習 調音器官の動作実習</p> <p>第9回 外国語の音声 聴覚実習</p> <p>第10回 子音 口音と鼻音</p> <p>第11回 閉鎖音・摩擦音 子音2</p> <p>第12回 破擦音・接近音・弾き音 子音3</p> <p>第13回 母音の無声化 聞き取りとルール</p> <p>第14回 鼻濁音 聞き取りと発音練習</p> <p>第15回 振り返り学習 試験</p>
授業概要	LL教室で講義と実習、グループ学習（演習）を中心に行い、話す音と聞く音はどう違うのかを体験します。演習を兼ねるため、受講生数の制限があります。Microsoft t e a m s を併用します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声学に関連する専門用語について、毎回知識の定着をはかるように努めてください。
テキスト	プリント配布。本年度の国語学概論のテキスト『図説日本語』も利用します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職（国語）必修科目として履修する場合は、後期開講の「国語表現法B（10192）」も続けて受講すること。音声に関する身近な例(CD, DVD, BD)を多く挙げます。プリントを多数併用します。綴じるファイルを用意してください。
評価方法	1年間（「国語表現法B（10192）」も含めて）座席指定。授業への参加度を重視90%（グループ課題達成度30%を含む）試験10%。
参考文献	
備考	Microsoft t e a m s 参加コードは、指定した方法で配布します。座席して授業のため、受講人数に制限があり、前後期を通して受講できる方を優先します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ヒトが音声をどのように放射して感知するのか全体的な仕組みを理解する</p> <p>到達目標：ヒトの発する音声を</p> <p>(1) 物理的側面から発声から実音に到る仕組みを理解する</p> <p>(2) 聴覚的にどのように音声を捉えるのかその全容を理解する</p>
授業計画	<p>第1回 導入 言語形成期と言語歴 受講者自身の言語形成についての内省・記述</p> <p>第2回 話し言葉の音声① ーオトとオンとー 「音」の二面性</p> <p>第3回 話し言葉の音声② ー音の種類ー 音全体の中の音声の占める位置</p> <p>第4回 音声器官 音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割</p> <p>第5回 音の分類と分析方法 ヒトの発する音の性質と分類方法</p> <p>第6回 音の強さと大きさ 音の物理的強さ、聴覚的大きさ</p> <p>第7回 音の強さの尺度 音圧、デシベル、音のスペクトル</p> <p>第8回 音の刺激量 フェヒナーの法則、ウェーバーの法則</p> <p>第9回 音の高さ オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造、聴覚フィルタ</p> <p>第10回 母音の生成としくみ 喉頭原音、構音・調音、基音・倍音</p> <p>第11回 母音・鼻音とフォルマント ソース・フィルタモデル、鼻音フォルマント</p> <p>第12回 子音の分類 子音分類の三基準</p> <p>第13回 共鳴音の調音 共鳴音のスペクトログラム</p> <p>第14回 阻害音の調音 阻害音のスペクトログラム</p> <p>第15回 まとめ 第1～14回の講述内容のおさらいとポイントの解説</p>
授業概要	そもそも「音声」とは何か、音声はどのように発信されどのように受容されるのか、音声の放射と感知の実態を詳しく観察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください。
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します。スライド使用で授業を進めます。必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください。
評価方法	毎時提示する練習問題は提出（ワークシート使用）を求めます。その成果(100%)により評価いたします。
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上泰『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	国語表現法A（10191）で履修した内容をもとに、日本語の韻律特徴を学びます。アクセント・イントネーション・プロミネンス・速度・テンポを理解し、音読・朗読・群読の技法を身につけます。一部の内容は国語科教授法(教職)を兼ねています。		
授業計画	第1回	導入 音声表現で何を学ぶか 五〇音の並び、音声連続の特色（プロソディ）	
	第2回	音感覚 アクセント	
	第3回	アクセントの式と型 オンデマンド授業	
	第4回	イントネーション・プロミネンス	
	第5回	プロソディの振り返り 確認テストと解説	
	第6回	スラッシュリーディング1 音読基礎	
	第7回	スラッシュリーディング2 音読基礎2	
	第8回	朗読 個人読み 詩	
	第9回	朗読2 個人読み 物語 場面と情景	
	第10回	朗読記号 群読 小編成	
	第11回	群読2 小編成実習	
	第12回	群読3 中編成 ポートフォリオ作成	
	第13回	群読4 中編成実習 指導案の作成	
	第14回	群読5 中編成 実技試験	
	第15回	まとめと試験	
授業概要	国語表現法A（10191）を履修済みであること。LL教室で講義と実習、グループ学習（演習）を中心に行い、話す音の特徴を理解し、音読、朗読、群読の技法を身につけます。 Microsoft teamsを併用します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	音声学に関連する専門用語について、毎回知識の定着をはかるように努めてください。また課題教材の音読を何度もしてください。		
テキスト	国語表現法A（10191）と同じ。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	前期開講の「国語表現法A（10191）」を履修済みであることが履修条件となります。音声に関する身近な例（CD、DVD、BD）を多く挙げます。プリントを多数使用します。綴じるファイルを用意してください。		
評価方法	座席指定。授業への参加度を重視70%（グループ課題達成度20%を含む）、実技20%、試験10%。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：日本語音声の実相と音声たらしめている音の観念とについて理解する</p> <p>到達目標：日本語音声の実相と観念上の音に関して</p> <p>(1) 子音と母音とに分けてそれぞれの調音的・物理的特徴を理解する</p> <p>(2) 受講生自身の話し言葉を内省しつつ音声的・超分節素的特徴を理解する</p>
授業計画	<p>第1回 母音の調音音声学的記述① 一短母音・長母音・連母音一 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第2回 母音の調音音声学的記述② 一母音の無声化一 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第3回 五十音図の音声学的分析 五十音図の構造を音声学的に解析する 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第4回 子音の有標性 子音らしさと母音っぽさ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第5回 注意すべき子音の調音 硬口蓋化子音とサ行・タ行・ナ行・ハ行子音 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第6回 ガ行濁子音・合拗音 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第7回 四つ仮名の歴史的展開 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第8回 無声子音の有声化・開拗音の直音化 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第9回 音声と音素 異音、音素、相補分布 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第10回 特殊拍とその音声 特殊拍の音声学的記述とその理解 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第11回 語の清濁と連濁 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第12回 日本語音韻の歴史的変遷 サ行子音・ハ行子音の歴史的展開、音節数の変化 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第13回 日本語のアクセント アクセント核、有核・無核アクセント、アクセントの型 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第14回 全国の音声・音韻・アクセント 東部方言、西部方言、九州方言 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p> <p>第15回 まとめと筆記試験の説明 第14回の補遺(琉球方言)と全体のまとめ 【授業終了時にミニレポートの提出を求めます】</p>
授業概要	日本語の音声・音韻・アクセントについて、受講生の話し言葉を観察しつつ、その特質・特徴について理解を深める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「国語表現法A」同様に、音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください。
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「国語表現法A」同様に、教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します。スライド使用で授業を進めます。必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください。
評価方法	「国語表現法A」同様に、毎時提示する練習問題は提出（ワークシート使用）を求めます。その成果（50%）と試験期間中に実施するペーパーテスト（50%）と併せて総合的に評価します。
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版）

	服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上泰『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

講義科目名称：古典文学講読 I (10211)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
千野 裕子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期に成立した『うつほ物語』を、前半部を中心に読み進めていく。様々な角度から丁寧に読み解きながら、この物語の個性や魅力、後世への影響などを自分の言葉で説明できるようになることを目指す。
授業計画	<p>第1回 『うつほ物語』概説</p> <p>第2回 俊蔭巻を読む(1)俊蔭漂流譚</p> <p>第3回 俊蔭巻を読む(2)仲忠の誕生</p> <p>第4回 藤原の君巻を読む</p> <p>第5回 忠こそ巻を読む</p> <p>第6回 春日詣巻を読む</p> <p>第7回 嵯峨の院巻を読む</p> <p>第8回 祭の使巻を読む</p> <p>第9回 吹上・上巻を読む</p> <p>第10回 吹上・下巻を読む</p> <p>第11回 菊の宴巻を読む</p> <p>第12回 あて宮巻を読む</p> <p>第13回 内侍のかみ巻を読む</p> <p>第14回 沖つ白波巻を読む</p> <p>第15回 この授業のまとめ</p>
授業概要	『うつほ物語』前半部を重要な場面を中心にダイジェスト的に読み進めていく。『源氏物語』をはじめとする後世の物語との影響関係を中心に分析・解説を加えつつ、さまざまな角度からの解釈を提示する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内で示した様々な解釈を参考に、再読・再考をすることによって、問題点や自分の考えをノート等にまとめること。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基本的には教員による解説が中心となるが、授業を聴きながらしっかりと自身の頭を動かしてほしい。授業を通して考えたことを書いてもらい、それに教員が答えるという時間を作るので、そこで意見交換をしたいと思っている。
評価方法	レポート（80%）、リアクションペーパーをはじめとする授業への参加度（20%）
参考文献	授業内で適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」－『紫式部日記』と『源氏物語』）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」、「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 『源氏物語』における「帚木」の位置 （冒頭の表現－「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」）</p> <p>第4回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」① （発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観）</p> <p>第5回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」② （左馬頭の論① 中の品の女）</p> <p>第6回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③ （左馬頭の論② 理想の妻）</p> <p>第7回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④ （左馬頭の体験談① 指喰いの女）</p> <p>第8回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤ （左馬頭の体験談② 木枯の女）</p> <p>第9回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥ （頭中将の体験談 常夏の女）</p> <p>第10回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦ （藤式部丞の体験談 博士の娘/女性論のまとめ）</p> <p>第11回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」① （発端一方違えのため紀伊守邸へ）</p> <p>第12回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」② （女近き旅寝 空蟬の境遇）</p> <p>第13回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」③ （空蟬との契り）</p> <p>第14回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」④ （空蟬という女性）</p> <p>第15回 「帚木」巻講読 「まとめ」 （空蟬のその後 「恋愛譚の序」としての「帚木」巻）</p>
授業概要	『源氏物語』の「帚木」巻を講読します。登場人物の心情表現や語句に即して読み、「雨夜の品定め」に論じられる理想の女性像や女性の生き方についても考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）ISBN 9784044024017 税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「帚木」巻の「雨夜の品定め」は、後に展開される光源氏の恋愛譚の序と見ることができます。男性貴族たちの失敗談を交えた女性論は、現代にも通じるところがあり、楽しく読めることと思います。登場人物の心理描写、和歌など、『源氏物語』の豊かな表現世界に触れてみてください。毎時、各自の解釈や感想などを書いてもらう予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への出席（提出物）（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。		
授業計画	第1回	導入	保元物語の歴史的背景
	第2回		保元の乱の成立、諸本、作者像
	第3回		『保元物語』と対象歴史史料
	第4回		卷上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長）
	第5回		卷上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化）
	第6回		卷上講読三（為義、その子英雄為朝の形象）
	第7回		卷上講読四（英雄為朝一党の成立）
	第8回		卷中講読一（合戦、清盛の懦弱、山田伊行の暴死）
	第9回		卷中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決）
	第10回		卷中講読三（乱戦、関東武士の群像）
	第11回		卷下講読一（敗走・頼長最期）
	第12回		卷下講読二（父為義の処刑）
	第13回		卷下講読三（幼児とその母の死）
	第14回		卷下講読四（為朝捕縛流罪）
	第15回		卷下（番外）為朝の冒険と最期
授業概要	保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京図本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	愚管抄、兵範記の関係個所の読解、保元物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解		
テキスト	コピーを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですぞ！ しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷´；）		
評価方法	レポート（100%）		
参考文献	授業で適宜指示		
備考			

講義科目名称：古典文学作品研究 I (10241)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
未定			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期の作り物語である『竹取物語』と『うつほ物語』の読解を通して、物語の発生と主題、『源氏物語』などの後世の作品への影響関係を学び、古典文学の鑑賞力と基礎的な研究方法を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 導入、古代文学史</p> <p>第2回 『竹取物語』概説</p> <p>第3回 『竹取物語』の出典考証－天人女房譚の諸相－</p> <p>第4回 『竹取物語』の読解－かぐや姫の生い立ち－</p> <p>第5回 『竹取物語』求婚譚と五つの難題</p> <p>第6回 『竹取物語』仏の御石の鉢、蓬萊の珠の枝</p> <p>第7回 『竹取物語』火鼠の皮衣、竜の頸の珠</p> <p>第8回 『竹取物語』燕の子安貝、御狩の行幸</p> <p>第9回 『竹取物語』かぐや姫の昇天</p> <p>第10回 『竹取物語』富士の煙、『竹取物語』の享受－『源氏物語』の竹取引用－</p> <p>第11回 『うつほ物語』概説－秘琴伝授と王権の物語－</p> <p>第12回 『うつほ物語』「俊蔭」巻の読解－俊蔭の生い立ちと異郷への流離譚－</p> <p>第13回 『うつほ物語』「俊蔭」巻－俊蔭の秘琴伝授－</p> <p>第14回 『うつほ物語』「俊蔭」巻－仲忠のうつほ住み－</p> <p>第15回 『うつほ物語』「藤原の君」巻－あて宮求婚譚－、まとめ</p>
授業概要	前期物語を輪読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面を読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。
テキスト	室伏信助訳注『新版竹取物語 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）640円（本体価格） 室城秀之編『うつほ物語』（角川ソフィア文庫）819円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『竹取物語』は『源氏物語』「絵合」巻に「物語の出できはじめの親」と紹介されています。また、『うつほ物語』は秘琴伝授と王権の物語で、後世の作品にも多く引用され、『枕草子』でも繰り返し物語談義に登場します。平安文学の読解は古典研究の基礎です。代表的な作品の読解を通して、基本的な作品鑑賞、研究の方法を身に付けます。積極的な授業への参加を望みます。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	上坂信男『竹取物語全評釈』右文書院 『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 『新編日本古典文学全集 うつほ物語①～③』小学館 室城秀之『うつほ物語 全』おうふう
備考	※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 「若紫」巻までの物語・登場人物についての解説</p> <p>第4回 「若紫」巻講読 「北山の垣間見」①—物語の発端（瘡病・加持、北山、垣間見について）</p> <p>第5回 「若紫」巻講読 「北山の垣間見」②—若紫との出会い（絵画とともに物語を鑑賞する）</p> <p>第6回 「若紫」巻講読 『伊勢物語』と「若紫」巻（『伊勢物語』「初段」「二条后章段」との比較）</p> <p>第7回 「若紫」巻講読 「僧都との対面」—若紫の素性を聞き出す（人物の移動の表現、対話表現を読み解く）</p> <p>第8回 「若紫」巻講読 「尼君との文通」①（和歌に託された光源氏の思いを読む）</p> <p>第9回 「若紫」巻講読 「尼君との文通」②—葵の上との不和と若紫への執着（和歌の贈答から、それぞれの思いを読み解く）</p> <p>第10回 「若紫」巻講読 「藤壺との密事」①（藤壺と光源氏、それぞれの心理描写を読む）</p> <p>第11回 「若紫」巻講読 「藤壺との密事」②—藤壺の懐妊と夢解き（『源氏物語』における観相・占い）</p> <p>第12回 「若紫」巻講読 「尼君の死」—病床の尼を見舞い、若紫の声を聞く（尼君の遺言と光源氏の思い）</p> <p>第13回 「若紫」巻講読 「若紫を迎え取る」①—乳母との対面、若紫に添い寝する（光源氏の思惑と周囲の目）</p> <p>第14回 「若紫」巻講読 「若紫を迎え取る」②—若紫の新生活（若紫の位置 親子か夫婦か）</p> <p>第15回 まとめ—長編的構想から見た「若紫」巻</p>
授業概要	『源氏物語』の「若紫」巻を講読します。和歌、表現、語句などを読み解き、物語を逐語的に解釈した上で、解釈上の問題点や、『伊勢物語』との関わり、長編的構想との関わりなどを考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）ISBN 9784044024017 税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「若紫」巻には、光源氏が生涯最愛の女性となる紫の上と出会い自邸に迎え取るまでの物語が描かれています。また、他にも、葵の上との不和、藤壺との密事と懐妊など、『源氏物語』の長編的な内容に関わる重大な出来事も多く語られます。巧みな物語展開、登場人物それぞれの心情描写など、豊かな表現世界に触れてみてください。毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい授業に反映させる予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 平治の乱の歴史的背景</p> <p>第2回 平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について</p> <p>第3回 卷上講読一 不用者信頼と大学者信西</p> <p>第4回 卷上講読二（焼討と信西最後の謎、その解明）</p> <p>第5回 卷上講読三 清盛・重盛の造形</p> <p>第6回 卷上講読四 物語の転機（光頼諫言・天皇脱出の虚実）</p> <p>第7回 卷上講読五（信頼像の瓦解と悪源太の登場）</p> <p>第8回 卷中講読一（重盛と義平の激突）</p> <p>第9回 卷中講読二（六波羅の決選と源氏の敗北）</p> <p>第10回 卷中講読三（源氏壊走）</p> <p>第11回 卷中講読四（義朝の最期、頼朝の捕縛）</p> <p>第12回 卷下講読一（義平の潜伏と刑死、怨霊化）</p> <p>第13回 卷下講読二（頼朝助命、配流）</p> <p>第14回 卷下講読三（常盤の苦衷）</p> <p>第15回 卷下講読四（源氏開運）</p>
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄の関係個所の読解、平治物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷`；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業中、適宜指示
備考	

講義科目名称：古典文学特講Ⅱ（10281）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
未定			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期の歌物語『伊勢物語』の調査、表現分析、研究発表を通して、作中人物の関係性と真情を理解し、物語の主題を探究する。また、『伊勢物語』の享受の様相から、文学史上の意義を考察する。
授業計画	<p>第1回 導入、平安前期物語の概要</p> <p>第2回 『伊勢物語』概説一昔男・在原業平とその時代一</p> <p>第3回 『伊勢物語』概説一本文と注釈史一</p> <p>第4回 『伊勢物語』初段と八十一段、最終章段の読解（発表例）</p> <p>第5回 『伊勢物語』二条后章段一昔男と二条後の悲恋一</p> <p>第6回 『伊勢物語』女を盗む話一昔男、二条后を盗み出す一</p> <p>第7回 『伊勢物語』東下り章段一昔男、東国に下る一</p> <p>第8回 『伊勢物語』鄙に下る章段一昔男、地方に下る一</p> <p>第9回 『伊勢物語』惟喬親王章段一昔男、旧主・惟喬親王と親しむ一</p> <p>第10回 『伊勢物語』伊勢斎宮章段一昔男と斎宮の禁忌の恋一</p> <p>第11回 『伊勢物語』翁章段、姫の段一老者の役割一</p> <p>第12回 『伊勢物語』運命を嘆く段</p> <p>第13回 『伊勢物語』親族章段一昔男と親族たちとの交情一</p> <p>第14回 『伊勢物語』の文学史上の位置付け・享受史</p> <p>第15回 『伊勢物語』の原文読解（変体仮名の読み方）</p>
授業概要	歌物語『伊勢物語』を、担当者による輪読・研究発表を中心に読解します。初冠の段に始まり、昔男の死を語る段で終る全125段の物語は、10余りの章段で構成されています。各章段の特色と意義を調査検証し、質疑応答することで、作品全体の流れを把握しながら、作品理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表日の2・3週間前から、担当場面の注釈の比較、現代語訳、研究を深め、準備して臨んで下さい。発表の1週間前に、事前指導を受けて下さい。
テキスト	石田穰二訳注『新版伊勢物語 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）720円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の昔男は都や鄙（地方）で多くの人々と交情し、和歌を詠じます。男と女、都と鄙、藤氏と他氏、藝（日常）と晴（非日常）の場で生み出される歌物語を、人物相互の関係性や和歌、歴史的背景の分析を通して味読、研究し、作品理解を深めます。
評価方法	輪読・研究発表（30%）、レポート（60%）、授業における積極的な参加の度合い（10%）で評価します。
参考文献	『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 竹岡正夫『伊勢物語全評釈 古注釈十一種集成』右文書院 鈴木日出男編『別冊国文学 竹取物語伊勢物語必携』學燈社、1988年
備考	※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	昔話と口承文学との関係、特に東アジア伝来の口承文芸を視野に入れて、成立、共通性、日本の独自性について考察する。
授業計画	<p>第1回 導入—昔話とは？享受の現状、魅力とは？</p> <p>第2～3回 口承文芸全般の中の昔話（伝説、語り物等との関係）</p> <p>第4～8回 昔話研究史（グリム兄弟、人類学説、地理伝播説、文芸学的分析、精神分析的方法）</p> <p>第9～10回 日本、朝鮮、中国の口承文芸の概観</p> <p>第11～12回 法明童子と沈清伝</p> <p>第13～14回 酒吞童子と韓国の昔話</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	国内の昔話研究が確立まで、比較研究は差し控へるといふのが、柳田国男の提言でした。然るに近年、中国・韓国・モンゴル・チベットの昔話が多く紹介され、日本の昔話、及び中世の物語との近似が注目されてをります。前半では、昔話とはどのような言説なのか研究史を辿り、後半は中世の物語と日本の口承文芸、更には東アジアの口承文芸との比較を試みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日本の昔話集は各種あります。適宜読んでみて下さい。
テキスト	コピー配ります
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まさか、アノ物語が、韓国の昔話・芸能とクリソツなんて！
評価方法	レポート（100%）
参考文献	<p>鵜野祐介『日中韓の昔話—共通話型三〇選』</p> <p>崔仁鶴『韓国昔話集成』1～8</p> <p>『日本昔話通観 研究編1 日本昔話とモンゴロイド—昔話の比較記述—』</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
千葉 正昭			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近代耽美派文学の源泉と目される永井荷風。新帰朝者として明治維新をどう眺めていたのか、エロス追及の果てに現実を超えた小説世界、江戸情緒こそが本来の日本の姿だと強弁することもあった。これらの世界は、自然主義とはどう違って独自性や様式の面白みを抱えていたのか、受講者と討論を踏まえ様式の特異性を確認していきたい。
授業計画	<p>第1回 永井荷風の伝記</p> <p>第2回 永井荷風とその時代／発表者の確定</p> <p>第3回 「花火」</p> <p>第4回 「曇天」</p> <p>第5回 「怠倦」</p> <p>第6回 「銀座界限」</p> <p>第7回 「花より雨に」</p> <p>第8回 「蟲干」</p> <p>第9回 「初硯」</p> <p>第10回 「夏すがた」</p> <p>第11回 「にくまれぐち」</p> <p>第12回 「あぢさゐ」</p> <p>第13回 「女中のはなし」</p> <p>第14回 「来訪者」</p> <p>第15回 「夢」／レポート提出</p>
授業概要	はじめの2回は担当教員が、解説する。その後は順番に沿って、グループでの口頭発表をしてもらう。その際質疑応答など、話し合いがなされることを期待したい。受け身の授業ではなく受講者自らが、積極的に参加することで荷風文学に深く接することができる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週のページを指定するので、予め読み問題点を整理する。授業を踏まえ、テーマをもう一度自分なりにノートに記述しておく。関りのあった別の作品等を調べておくこと。
テキスト	購買部で購入可能／「花火・来訪者 他十一編」永井荷風作（岩波文庫）700円＋税 ISBN 978-4-00-360035-1
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ol style="list-style-type: none"> 1、学生の興味を引くように身近な事例を取り入れながら進めたい。 2、授業で伝えたいことを明確にしていきたい。 3、受講生の理解を深めるために小アンケートを実施したい。
評価方法	発表内容10%、質疑応答10%、レポート80%。
参考文献	その都度授業で指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	西加奈子『円卓』を一度読み通した後、家族と居住空間に関する歴史的な文脈を学び、再び『円卓』を読み直す。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③歴史的な背景に小説を位置付けることで新たな「読み」を発見する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 映画『家族ゲーム』（1983年）を見る</p> <p>第3回 家族とは何か：「近代家族」論を学ぶ講義</p> <p>第4回 西加奈子『円卓』精読①</p> <p>第5回 西加奈子『円卓』精読②</p> <p>第6回 西加奈子『円卓』精読③</p> <p>第7回 家族と居住空間①：団地と家族（映画『私は二歳』）</p> <p>第8回 家族と居住空間②：団地と家族（映画『しとやかな獣』）</p> <p>第9回 家族と居住空間③：家族の壊し方（映画・テレビドラマ『家族ゲーム』と映画『逆噴射家族』）</p> <p>第10回 家族と居住空間④：団地の主婦たち（小説・映画『OUT』）</p> <p>第11回 家族と居住空間⑤：団地の子どもたち（映画『どこまでもいこう』）</p> <p>第12回 映画『円卓、こっこひと夏のイマジン』（2014年）を見る</p> <p>第13回 西加奈子『円卓』精読④：「かっこええ」問答と8月15日</p> <p>第14回 西加奈子『円卓』精読⑤：「成長」はいいことなのか？</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	西加奈子『円卓』を二回読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	西加奈子の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	西加奈子『円卓』（文春文庫、2013年、550円、ISBN978-4-16-786101-8） ※購買で購入できます、西加奈子『円卓』であれば他の版でも問題ありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的な文脈を知ることで、より楽しく小説を読むことができるようになります。リアクションペーパーにこたえる時間を多めに取るので、自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	議論への貢献度（20%）、中間レポート（40%）、最終レポート（40%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有 授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	明治20年代末に流行した「深刻・悲惨小説」と呼ばれる短編小説群を読んでいます。このジャンルに属する小説の内容は多岐に渡り、関わった作家やその表現も様々ですが、明治の社会においてどんなことが「深刻」や「悲惨」とされたのか、そこに文学者がどう関わったのか、小説分析の基礎的方法や概念を学びながら読み解いていきます。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文学研究と注釈①川上眉山「大さかづき」 第3回 文学研究と注釈②川上眉山「大さかづき」 第4回 文学研究と注釈③川上眉山「大さかづき」 第5回 都市空間と文学①泉鏡花「夜行巡査」 第6回 都市空間と文学②泉鏡花「夜行巡査」 第7回 都市空間と文学③泉鏡花「夜行巡査」 第8回 表象を読む①広津柳浪「亀さん」 第9回 表象を読む②広津柳浪「亀さん」 第10回 表象を読む③樋口一葉「にごりえ」 第11回 表象を読む④樋口一葉「にごりえ」 第12回 表象を読む⑤樋口一葉「にごりえ」 第13回 同時代評を参照する① 第14回 同時代評を参照する② 第15回 全体のまとめ		
授業概要	教員による講義・解説の他に、適宜履修者に意見を求めることがあります。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	対象作品の通読を求めます。その他、予め提示された課題について自分なりの意見をまとめてくるよう指示する場合があります。		
テキスト	授業中に適宜指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	近代の作品ですが、文体が古く、読みづらいものもあります。辞書を用いながら根気よく読んでいきましょう。		
評価方法	授業中の発言や課題（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。		
参考文献	授業中に適宜提示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	川端康成『山の音』を一度読み通した後、川端に関するこれまでの研究成果を学び、再び『山の音』を読みます。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③文学研究の蓄積を学んだ上で新たな「読み」を発見する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 川端康成とは何者か①：川端康成の幼年・青年期を学ぶ講義</p> <p>第3回 川端康成とは何者か②：川端康成の作家活動を学ぶ講義</p> <p>第4回 川端康成『山の音』精読①：「山の音」、「蟬の羽」、「雲の炎」、「栗の実」</p> <p>第5回 川端康成『山の音』精読②：「島の夢」、「冬の桜」、「朝の水」、「夜の声」</p> <p>第6回 川端康成『山の音』精読③：「春の鐘」、「鳥の家」、「都の苑」、「傷の後」</p> <p>第7回 川端康成『山の音』精読④：「雨の中」、「蚊の群」、「蛇の卵」、「秋の魚」</p> <p>第8回 戦後小説としての『山の音』</p> <p>第9回 家族小説としての『山の音』</p> <p>第10回 妊娠小説としての『山の音』</p> <p>第11回 映画『山の音』（1954年）を見る</p> <p>第12回 妊娠映画としての『山の音』</p> <p>第13回 川端康成『山の音』精読⑤：あらすじを書く・読む</p> <p>第14回 川端康成『山の音』精読⑥：戦後とアメリカ</p> <p>第15回 『山の音』をテキストマイニングする、まとめ</p>
授業概要	川端康成『山の音』を二回精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	川端康成の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	川端康成『山の音』（新潮文庫、1957年、781円、ISBN978-4-10-100242-2） ※購買で購入できます、川端康成『山の音』であれば他の版でも問題ありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的な文脈を知ること、より楽しく小説を読むことができるようになりますと思います。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	議論への貢献度（20%）、中間レポート／発表（40%）、最終レポート（40%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
千葉 正昭			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	谷崎潤一郎の作品を取り上げる。明治40年代自然主義文学に飽き足りない思いをもって登場した谷崎が、構想した文学世界は如何様なものであったのか。その露悪趣味・地誌の多用・肉体上の残忍さと恐怖と快感などを、作品の構造を通して理解していく。
授業計画	<p>第1回 谷崎潤一郎の伝記</p> <p>第2回 谷崎潤一郎とその時代／発表者決定</p> <p>第3回 先行研究の説明</p> <p>第4回 「刺青」 学生発表＋教員解説</p> <p>第5回 「少年」 その1 学生発表＋教員解説</p> <p>第6回 「少年」 その2 学生発表＋教員解説</p> <p>第7回 「袴間」 学生発表＋教員解説</p> <p>第8回 「秘密」 その1 学生発表＋教員解説</p> <p>第9回 「秘密」 その2 学生発表＋教員解説</p> <p>第10回 「異端者の悲しみ」 その1 学生発表＋教員解説</p> <p>第11回 「異端者の悲しみ」 その2 学生発表＋教員解説</p> <p>第12回 「異端者の悲しみ」 その3 学生発表＋教員解説</p> <p>第13回 「二人の稚児」 学生発表＋教員解説</p> <p>第14回 「母を恋うる記」 その1 学生発表＋教員解説</p> <p>第15回 「母を恋うる記」 その2 学生発表＋教員解説／レポート提出</p>
授業概要	谷崎潤一郎の登場とは、如何なる意味をもっていたのか。はじめの3回で文壇状況を絡めた解説を施す。次いで作品を丁寧に読むことを主眼としたい。地誌がふんだんに多用されるが、可能な限り確認していきたい。耽美派の面白さを理解することを目標としたい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>1翌週のプリントを配布するので、予め読み問題点を考えておくこと。</p> <p>2授業を踏まえてテーマをもう一度自分なりに整理しておくこと。</p> <p>3授業に関りのあった別の作品等を調べておくこと。</p>
テキスト	購買部で販売／「刺青・秘密」谷崎潤一郎著（新潮文庫）520円＋税 ISBN 978-4-10-100503-4
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	余り硬くならないで参加して欲しい。グループでの発表などは、皆様方の思い出になることと考えている。先行研究などを紹介していくので、はじめの3回は出席して自分の糧にして欲しい。
評価方法	発表内容10%、質疑応答10%、レポート80%。
参考文献	授業でその都度指示していく。
備考	積極的な参加が皆さんを成長させることは間違いありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	主に「近現代文学」を書かれた歴史的・社会的背景や、映画・アニメなど他のメディアとの関係に目を配りながら読み解いていきます。到達目標は以下の三つです。①小説や映画、アニメの細部を丁寧に読み解くことで、自身の「読み」を作り出す力を身につける。②自分の「読み」を発信する力と、他の人の多様な「読み」を聞く力を身につける。③歴史的・社会的・メディア的背景へ目を向けることで、自身の「読み」を別の視点から捉えなおし、相対化する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：文学的なことは社会的なこと</p> <p>第2回 「文豪」はつくられる</p> <p>第3回 志賀直哉『暗夜行路』を「戦後」に読む</p> <p>第4回 「内向の世代」の空間</p> <p>第5回 三島由紀夫は映画に「敗北」したか</p> <p>第6回 中間のまとめ：「文豪」の時代の終わり</p> <p>第7回 文学と文学と映画に描かれた病①：堀辰雄『風立ちぬ』</p> <p>第8回 文学と映画に描かれた病②：松本清張『砂の器』</p> <p>第9回 映画『ドグラ・マグラ』（松本俊夫監督、1988年）を見る</p> <p>第10回 文学と映画に描かれた病③：夢野久作『ドグラ・マグラ』</p> <p>第11回 SFの現代性：大江健三郎『治療塔』・『治療棟惑星』</p> <p>第12回 映画『息の跡』（小森はるか監督、2016年）を見る</p> <p>第13回 3.11震災文学と震災ドキュメンタリー映画：津島佑子『半減期を祝って』と『息の跡』</p> <p>第14回 戦争の記憶の「現在」：村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	戦後以降の小説を多角的に捉えることで、いま小説を読むことの意味について考えたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の関心に合わせて可能な限り言及する作家・小説を増やします。毎授業でリアクションペーパーに答える時間を取っているのので、積極的に意見を発信してください。
評価方法	授業の参加（20%）及び議論への貢献（10%）、レポート（70%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会言語学の基礎的知見を広げることを目標とします。		
授業計画	第1回	導入 身近な言語事象 リアルなことばとヴァーチャルなことば	
	第2回	社会言語学とは何か1 ことばの種類	
	第3回	社会言語学とは何か2 ことばの選択、変化	
	第4回	話し手に根ざしたことば 『となりのトトロ』にみるサツキとメイ、カンタの言葉遣い	
	第5回	役割語と「らしさ」 『風の谷のナウシカ』にみる二人のヒロインの言語行動1	
	第6回	語用論とface理論 『風の谷のナウシカ』にみる二人のヒロインの言語行動2	
	第7回	聞き手にあったことば 『耳をすませば』にみる対人関係の変化とことば1	
	第8回	アコモデーションとポライトネス 『耳をすませば』にみる対人関係の変化とことば2	
	第9回	状況にあったことば 『千と千尋の神隠し』にみるハク、湯婆婆の言語選択	
	第10回	場面とことば 『千と千尋の神隠し』にみるリンの言語選択	
	第11回	話題と機能	
	第12回	伝達方法とことばの選択	
	第13回	日本語の人称表現	
	第14回	文化とことばの変化	
	第15回	まとめと試験	
授業概要	ことばを生きたものにとらえ、時と場合により多様に使い分けられることを研究するのが社会言語学です。リアル社会で使われる等身大の日本語を観察し、またヴァーチャル世界のことばと比較しながら、自身のことばをみつめてみましょう。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配布されたプリントを整理して理解するように努めましょう。		
テキスト	石黒圭『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社文庫 840円＋税 ISBN 978-4-334-03746-8 さわらび会購買部でも販売します。プリントを併用します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「上手な」ではなく、「正しい」でもなく、「ふさわしい」日本語とは何か、日本文化におけることば選びの科学について考えましょう。映像作品の一部だけを切り抜いて視聴します。		
評価方法	試験60%、課題20%、授業への参加度20%。		
参考文献			
備考	Microsoft Teamsを併用します。チームコードは履修生に通知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマは〈文学で考える「日本語」とは何か〉。近現代の小説作品を中心に、方言が書き込まれたものや、方言で書かれたもの、外国語（戦前においては「外地」の言葉）が登場するものを、時代順に読み解いていく。授業を通して、標準語と方言との関係、日本語と外国語との関係を、文学がどのように描いてきたかを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 近代小説文体の成立まで</p> <p>第3回 井伏鱒二「朽助のいる谷間」における言語のヒエラルキー①</p> <p>第4回 井伏鱒二「朽助のいる谷間」における言語のヒエラルキー②</p> <p>第5回 王昶雄「奔流」における植民地青年の言語とアイデンティティ①</p> <p>第6回 王昶雄「奔流」における植民地青年の言語とアイデンティティ②</p> <p>第7回 〈英語〉から問い直す占領期の日本：小島信夫「アメリカン・スクール」①</p> <p>第8回 〈英語〉から問い直す占領期の日本：小島信夫「アメリカン・スクール」②</p> <p>第9回 告発することば：石牟礼道子『苦海浄土』①</p> <p>第10回 告発することば：石牟礼道子『苦海浄土』②</p> <p>第11回 井上ひさし『吉里吉里人』における告発と転倒の論理①</p> <p>第12回 井上ひさし『吉里吉里人』における告発と転倒の論理②</p> <p>第13回 目取真俊「水滴」におけるウチナーグチとヤマトゥグチ①</p> <p>第14回 目取真俊「水滴」におけるウチナーグチとヤマトゥグチ②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	適宜小説の読解に関し、履修者に意見を求めることがある。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ対象テキストを読み、事前に提示された論点について自分なりに意見をまとめてくる。
テキスト	授業中に適宜指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「俺達（おらだづ）が独立（どぐりじ）を踏み切（ぎ）ったなあ、日本国（ぬほんのくに）さ愛想（あえそ）もこそも尽き果（はん）てだがらだっちゃ」。山形県川西町出身の作家・井上ひさしの長編『吉里吉里人』に登場するセリフです。文学作品に方言が登場するとき、または作品そのものが方言によって書かれるとき、そこには既存の価値観や体制に対する異議申し立ての意味が強くあらわれます。その威力をぜひ感じ取ってほしいと思います。『吉里吉里人』『苦海浄土』は長編のため、授業では適宜抜粋して読む予定です。興味をもった方は、ぜひ通読にチャレンジしてください。
評価方法	授業内の小レポートや発言（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	初期江戸語(関東方言)によって書かれた文献について、国語学的に講読する。 I いわゆる古典文学とは異なる文章体を扱うが、それぞれの文章様式について理解する II 文章のアウトラインを掴み、言葉を逐って読むことに習熟する III 近世当時の中央語の流れについて理解する
授業計画	第1回 近世語の諸相 第2回 初期江戸語資料について 第3回 『雑兵物語』の資料性 第4回 『雑兵物語』の諸本 第5回 『雑兵物語』を読む① 一文末表現に注意して一 第6回 『雑兵物語』を読む② 一接続表現に注意して一 第7回 『雑兵物語』を読む③ 一東国方言語彙一 第8回 『雑兵物語』を読む④ 一奴言葉について一 第9回 『雑兵物語』を読む⑤ 一上方語的特徴一 第10回 『雑兵物語』を読む⑥ 一日常的な言葉遣いと開かれた場での言葉遣い一 第11回 『雑兵物語』を読む⑦ 一諸国方言との関連性一 第12回 『雑兵物語』を読む⑧ 一伝統的文法と初期江戸語文法と①一 断定表現の推移 第13回 『雑兵物語』を読む⑨ 一伝統的文法と初期江戸語文法と②一 否定表現の推移 第14回 『雑兵物語』を読む⑩ 一伝統的文法と初期江戸語文法と③一 推量表現の推移 第15回 『雑兵物語』を読む⑪ 一伝統的文法と初期江戸語文法と④一 禁止表現の推移
授業概要	授業担当者による講読と、受講生による輪読と、併行して進めます。受講生による輪読では、テキストを音読し、概要についての理解を促します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了直前に予告しますので、指定テキストを事前に読み、難解な点について抽出しておいてください。授業後はテキストを読み返し、本文理解の定着に努めてください。
テキスト	必要に応じて印刷し適切な折に配付します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	授業担当者による講読では、トピックごとに整理しながら読むこととし、受講生にも担当範囲を事前に決めて読むように、計画的に進めたいと思います。
評価方法	レポート提出を求め、それにより(100%)評価いたします。
参考文献	『日本語学研究事典』(明治書院) 『日本語大事典』(朝倉書院)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	書翰文の様式、使用される言葉遣いの性質について、理解を深めることをテーマに据え、以下3点の目標を掲げる。 Ⅰ 近世書状(私的文章)に使われる待遇表現について理解する Ⅱ 古典語と近代語との時代差による意味・用法の差異について理解する Ⅲ 原本の影印資料に触れ、連綿体の文字が解読できる
授業計画	<p>第1回 書翰文の様式 授業計画・評価方法の説明および変体仮名・草書体についての説明</p> <p>第2回 藤井高尚の事蹟と『消息文例』 国学者としての藤井高尚の事蹟について 敬語概説 敬語の種類</p> <p>第3回 本居宣長による序文と鳥越常成による跋文とを読む 本居宣長との師弟関係について 敬語概説 敬語史</p> <p>第4回 凡例を読む 『消息文例』執筆の動機について 本文読みに関するレポート提出</p> <p>第5回 「文におのが事を言ふ例」 書き言葉における自称の表現について</p> <p>第6回 「文にさきの人の事を言ひ遣る例」 書き言葉における対称の表現について</p> <p>第7回 「候ふ 侍り」 丁寧語二つの消長について</p> <p>第8回 「思ひたまへ」 古典語で誤りやすい二つの敬讓動詞について</p> <p>第9回 「申す 聞ゆ」 謙讓語二つの差異を関係規定性から捉える</p> <p>第10回 「せ させ」 尊敬辞の使い方について</p> <p>第11回 「奉る」 謙讓語動詞の生成と展開について</p> <p>第12回 「御」 敬語接頭辞について</p> <p>第13回 「仕うまつる」「まゐらせ まゐる」 進上スル意の謙讓語について</p> <p>第14回 「御覧ず」「ものす」 漢語尊敬動詞と書翰文に多用される動詞について</p> <p>第15回 まとめと口頭試問についての説明</p>
授業概要	藤井高尚『消息文例』を採り上げ、上巻を中心に、併せて関連事項を下巻から拾い読みし、原文の解説を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について、毎時終了直前に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておいてください。授業終了後は、再びテキストを読み返し、理解の定着に努めてください。
テキスト	和泉書院影印叢刊『消息文例』（2,000円本体価格） ISBN④-900137-18-9 C3381
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	影印資料は馴れさえすれば読めるようになるので、根気よく読むことに集中してください。当然ですが、指定テキストは必ず入手してください。（持たないで授業に参加しても無意味です。）
評価方法	試験期間中に行う口頭試問（100％）により評価します
参考文献	久曾神昇『平安時代仮名書状の研究』（風間書房） 『岩波講座日本語4 敬語』（岩波書店） 『講座国語史5 敬語史』（大修館書店） 『国語学叢書13 敬語』（東京堂出版）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有

授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ：「国語学・日本語学」とはどういう領域の学問か、全体像を把握する 授業の到達目標：「国語学概論」の内容を承け、日本語学の基礎的な知見をより確かなものにする
授業計画	<p>第1回 言語と人間 導入</p> <p>第2回 言語の特質・言語の機能・脳の言語中枢(ブロードマンの脳地図) 日本語の音声と音韻1（単音と音素） 音声学と音韻論について</p> <p>第3回 日本語の音声と音韻2（音声器官と調音） 子音の特徴をめぐって／音声器官と調音について</p> <p>第4回 日本語の音声と音韻3（子音と歴史的変容） 音声・音韻史</p> <p>第5回 日本語の音声と音韻4（かぶせ音素） 主にアクセントのこと</p> <p>第6回 日本語の文字表記1（日本語表記の特徴） 漢字仮名まじり表記の特徴について</p> <p>第7回 日本語の文字表記2（漢字と仮名） 漢字と仮名の歴史</p> <p>第8回 日本語の文字表記3（仮名の諸相と仮名遣い） 主に仮名遣いのこと</p> <p>第9回 日本語の語彙1（語彙調査・語の意味・類語） 主に語の意味のこと</p> <p>第10回 日本語の語彙2（語種と語構成） 主に語構成法のこと</p> <p>第11回 日本語の語彙3（語の位相） 日本語の位相について</p> <p>第12回 日本語の文法1（学校文法と文節文論） 学校文法の限界と現代語文法論[学説]</p> <p>第13回 日本語の文法2（現代日本語の文法） 現代語文法論／敬語の5分類と歴史的展開</p> <p>第14回 日本語の方言1 方言と標準語・方言分布について</p> <p>第15回 日本語の方言2 圏分布と東西分布／方言の過去と将来</p>
授業概要	テキストおよび配付資料を基に国語学・日本語学の研究分野についての基礎的・全般的内容を講述する。テーマごとに確認レポートを課し、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理し、さらに練習問題で理解度を確保しておくこと。
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装 1,300円(本体価格) ISBN978-4-7576-0541-1 C1381
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	編入学希望者で、編入学試験に日本語学関連の専門科目が課される方は受講なさるとよいと思います。学年指定はありませんが、履修はぜひ2年次でお願いしたいと思います。各回に行う確認レポートが理解の助けになったとの意見が寄せられましたため、今年度もテーマごとに行います。
評価方法	毎時間に実施する確認レポートの状況（5割） 試験期間中に行う筆記試験（5割）
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語学キーワード事典』（朝倉書店） 『日本語百科大事典』（大修館書店）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
田中 宣廣			

授業のテーマ及び到達目標	①学術論文の構成法の基本，および，論述内容について理解できる。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法が理解できる。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて理解できる。 ④社会人として，日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し，理解できる。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について理解できる。
授業計画	第1回 講義プログラム～学生論文編1：パソコン利用論文作成のメリットとその活用法 第2回 学生論文編2：研究論文における論述内容＋注釈で解説すること 第3回 学生論文編3：入門的論文としての卒業論文の構成例＋注釈の効果的使用法 第4回 学生論文編4：文章の階層構造とその表示法 第5回 学生論文編5：読み手が理解しやすい文章の構成とその留意点 第6回 学生論文編6：図表の作成と効果的提示法 第7回 学生論文編7：パソコンの基本操作とファイル管理やバックアップの重要性 第8回 基本強化編1：文字の定義，「漢字」の構成 第9回 基本強化編2：日本の文字の成り立ち 第10回 基本強化編3：「ひらがな」と「カタカナ」 第11回 基本強化編4：日本のローマ字＝5種類 第12回 社会文書編1：社会との接触における表現の注意点 第13回 社会文書編2：文書の自己アピールの表現～履歴書・志望理由・エントリーシート～ 第14回 社会文書編3：用件伝達の表現の注意点と作法～手紙・Eメール・電話～ 第15回 社会文書編4：社会的コミュニケーションの意義～まとめ：社会人となる心構え
授業概要	①学術論文の構成法の基本，および，論述内容について考察します。 ②現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法を考察します。 ③パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて考察します。 ④社会人として，日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し，考察します。 ⑤コミュニケーションと文章表現の関係について考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	《授業前》 配布資料《プリント》について，事前に目を通しておきましょう。講次順に整理し，当該講とともに他講分も参照できるように，用意してください。 《授業後》 講義内容についてあらためて自分なりに整理しておきましょう。
テキスト	教員作成配布資料《プリント》を用い，投影資料（パワーポイントなど）により進めます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会人の文章として格式があって型が整えられ，しかも，明解な文書表現を学びます。特に，パソコン利用の効果的な論文やレポートの書き方は，今や常識として学んでおく必要があります。 また，「集中講義」は時間の集中とともに，気持ちの集中も求められます。通常なら15週にわたり少しずつ考察を進めていく内容を，4日間で学ぶのは，気持ちの集中があつてこそ成立します。
評価方法	毎講，「レポートシート」にその講の主旨を120字程度にまとめて記入し，提出していただきます。 評価は，学修姿勢（レポートシートの内容や受講態勢など）により審査します。 試験，また，（時間の掛かる）レポートは課しません。
参考文献	田中宣廣他（2011）『講座ITと日本語研究 第1巻 コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院） ISBN：9784625434389

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 漢文学入門</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付ける。 ・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 漢文・漢文学の定義と漢字・漢語(熟語)の基礎知識</p> <p>第3回 漢文の基本構造と訓読法(返り点の用法と種類・書き下し文・置き字)</p> <p>第4回 句法の基本型：再読文字・使役形・受身形</p> <p>第5回 句法の基本型：否定形</p> <p>第6回 句法の基本型：疑問形・反語形</p> <p>第7回 句法の基本型：願望形・推量形</p> <p>第8回 句法の基本型：仮定形・比較形・抑揚形</p> <p>第9回 句法の基本型：限定形・累加形・詠嘆形・倒置形</p> <p>第10回 近体(今体)詩の修辞法</p> <p>第11回 日本人と漢文学：上代、平安前期</p> <p>第12回 日本人と漢文学：平安後期、鎌倉・室町</p> <p>第13回 日本人と漢文学：江戸前期</p> <p>第14回 日本人と漢文学：江戸後期</p> <p>第15回 日本人と漢文学：明治以降</p>
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の確認・定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず復習を行い、十分に理解を深めること。なお、10回目までは配布プリントの原文について、あらかじめ辞書等で調べ、書き下し文及び現代語訳を準備しておくこと。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(70%)、授業時の取り組む姿勢(30%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞書も可)を持参してください(2回～10回)。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 中国古典文学の世界</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓点(送り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・日本人や日本文学に有形無形の影響を与えてきた中国古典文学の概要を把握するとともに、作品が書かれた、それぞれの時代の社会や文化に対する理解を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『史記』淮陰侯列伝から</p> <p>第3回 『論語』から</p> <p>第4回 『老子』から</p> <p>第5回 『莊子』から</p> <p>第6回 東晋・陶淵明「桃花源記」「五柳先生伝」</p> <p>第7回 東晋・王羲之「蘭亭序」</p> <p>第8回 唐・李白「春夜宴桃李園序」、唐・韓愈「雑説二」</p> <p>第9回 唐・韓愈「雑説二・四」</p> <p>第10回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第11回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第12回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第13回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第14回 明・帰有光「貞女論」</p> <p>第15回 明・帰有光「貞女論」</p>
授業概要	中国古典文学の中から、古来、日本人にも親しまれてきた著名な散文作品を中心に幾つかを取り上げ、それらを講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 「唐代伝奇」小説の世界</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「離魂記」</p> <p>第3回 「離魂記」</p> <p>第4回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第5回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第6回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第7回 「板橋三娘子伝」</p> <p>第8回 「定婚店」</p> <p>第9回 「定婚店」</p> <p>第10回 「杜子春伝」</p> <p>第11回 「杜子春伝」</p> <p>第12回 「杜子春伝」</p> <p>第13回 「枕中記」</p> <p>第14回 「枕中記」</p> <p>第15回 「枕中記」</p>
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文を正確に訓読、解釈できる。 ・問題に対する的確な記述答案が作成できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第3回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第4回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第5回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第6回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第7回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第8回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第9回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第10回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第11回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第12回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第13回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第14回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第15回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。</p>
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。 ・問題に対する的確な記述答案が作成できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第3回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第4回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第5回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第6回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第7回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第8回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第9回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第10回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第11回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第12回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第13回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第14回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第15回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によって句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。</p>
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞典も可)を毎回持参して下さい。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p><授業のテーマ> 中国文学史 <到達目標> 先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、一、序論 (1)中国文学の特質 (2)〈言志派〉と〈載道派〉・〈達意主義〉と〈修辞主義〉(3)時代区分・日本との関係</p> <p>第2回 二、先秦時代の文学 (1)神話 (2)詩経 (3)散文の起源と展開「書経」「易経」</p> <p>第3回 二、秦漢時代の文学 (3)散文の起源と展開「諸子百家の散文」「孔子」「孟子」「韓非子」「老子」「荘子」「春秋左氏伝」「国語」「戦国策」(4)楚辞</p> <p>第4回 三、秦漢の散文 (1)秦 (2)漢「史記」「班固」「漢書」「論衡」</p> <p>第5回 四、漢代の韻文学 (1)駢文の起源 (2)辞賦・楽府・古詩十九首 (3)辞賦</p> <p>第6回 四、漢代の韻文学 (4)楽府 (5)古詩 (6)古詩十九首</p> <p>第7回 五、魏晉南北朝の文学 (1)建安の文学「曹操」「曹丕」「曹植」「竹林の七賢」</p> <p>第8回 五、魏晉南北朝の文学 (2)晋の詩「陶淵明」「謝靈運」</p> <p>第9回 五、魏晉南北朝の文学 (3)齊・梁の宮廷文学「『文選』」「駢文」「文学評論」「小説」</p> <p>第10回 六、隋・唐の文学 (1)隋の文学 (2)唐代文学「初唐の詩」</p> <p>第11回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「盛唐の詩」「李白」「絶句について」</p> <p>第12回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「杜甫」「その他の盛唐の詩人」</p> <p>第13回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「中唐の詩文」「韓愈」「柳宗元」</p> <p>第14回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「白居易」</p> <p>第15回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「晩唐の詩人」「小説」「唐の詞と五代の詞」</p>
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず授業時のノートやメモを参照しながらテキストを読み直し、理解の定着を図ること。
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』（慶應義塾大学出版社）1,320円（税込価格）ISBN:978-4766401943 大学内の購買部で購入可能。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、四年制大学への編入試験で中国文学や文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業時の取り組む姿勢(20%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』より派生した『伊吹童子』の内容を読み解き、民間伝承、他の古典・説話を参照しその成立の諸問題を考察します。
授業計画	<p>第1回 導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本</p> <p>第2回 酒天童子物語との関連</p> <p>第3回 伊吹童子発表のため諸道具、参考書について</p> <p>第4回 受講生の発表1</p> <p>第5回 受講生の発表2</p> <p>第6回 受講生の発表3</p> <p>第7回 受講生の発表4</p> <p>第8回 受講生の発表5</p> <p>第9回 受講生の発表6</p> <p>第10回 受講生の発表7</p> <p>第11回 受講生の発表8</p> <p>第12回 受講生の発表9</p> <p>第13回 受講生の発表10</p> <p>第14回 受講生の発表11</p> <p>第15回 『伊吹童子』まとめ</p>
授業概要	酒天童子の前半生を語る『伊吹童子』を通読、宛てられた箇所を各自読解し、『伊吹童子』諸本、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では取り上げない『伊吹童子』諸本、『酒天童子』、関連文献（土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	大英図書館蔵『伊吹童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。
評価方法	演習の発表（100％）一人1－2回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。		
授業計画	第1回	導入	酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本
	第2回		酒天童子諸本について 香取本・サントリー本・中京大本・呆犬齋本
	第3回		酒天童子関連物語・伝説の展開
	第4回		酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について
	第5回		受講生の発表1
	第6回		受講生の発表2
	第7回		受講生の発表3
	第8回		受講生の発表4
	第9回		受講生の発表5
	第10回		受講生の発表6
	第11回		受講生の発表7
	第12回		受講生の発表8
	第13回		受講生の発表9
	第14回		受講生の発表10
	第15回		総論－酒天童子とは何者か
授業概要	酒色に耽溺する酒天童子を退治する源頼光一行の冒険を通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係から、成立等の諸問題を考へる発表をします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	香取本、サントリー本、中京大本の精読対照、関連文献（『伊吹童子』、土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること		
テキスト	渋川版『酒天童子』		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。 呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたします。		
評価方法	演習の発表（100%）一人1－2回発表です。		
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近代から現代までの短篇小説を対象とし、テキストの構造や語りの問題、文学理論の援用など、文学テキストの分析的な読み方を学ぶ。授業を通し、卒業研究にも活かせるような読解力や思考力、調査力を身につけることを目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス テキストや授業の方法、発表の仕方について説明。各担当の振り分け。	
	第2回	資料の探し方 文学テキストを論じるための文献の探し方を学びます。	
	第3回	作者と語り手 第8回まで、受講者による発表、議論を通して文学テキストを分析的に論じるための基本的な考え方や理論を学びます。	
	第4回	「語り」への注目①	
	第5回	「語り」への注目②	
	第6回	身体と空間	
	第7回	ジェンダー批評	
	第8回	アダプテーション	
	第9回	卒業論文の書き方、進め方① 実際に論文を読むことで、卒業論文の書き方や研究の進め方を学びます。	
	第10回	卒業論文の書き方、進め方②	
	第11回	個人発表① 卒業論文の構想発表を中心に、受講者による研究発表を行います。	
	第12回	個人発表②	
	第13回	個人発表③	
	第14回	個人発表④	
	第15回	前期のまとめ	
授業概要	履修者による発表と、それを踏まえた小グループや全体でのディスカッションを中心とする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	発表担当者以外の人でも、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、全体で議論したいことを整理してくる。		
テキスト	小林昌樹『調べる技術』（皓星社、2000円＋税）、荒井裕樹ほか編『ここから始める文学研究』（みずき書林、2000円＋税）、その他授業中に指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文学作品を分析するためには、「何が」書かれているかだけでなく、「いかに」書かれているかをしっかり読み込むことが大切です。履修者全員で議論しながら、小説を細かく、批評的に読む方法を学んでいきましょう。積極的な発言を期待します。		
評価方法	授業中の報告内容（30%）、質疑などの発言（20%）、レポート課題（50%）によって評価する。		
参考文献	小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』（慶應義塾大学出版会、2400円＋税）、松本和也編『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2000円＋税）、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	受講者の個人研究発表を中心とする。授業を通して、小説の読解に必要な注釈の仕方、先行研究の調べ方、分析の仕方を学んでいく。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 発表方法の案内、各回の担当決め。</p> <p>第2回 個人・グループ研究発表①</p> <p>第3回 個人・グループ研究発表②</p> <p>第4回 個人・グループ研究発表③</p> <p>第5回 個人・グループ研究発表④</p> <p>第6回 個人・グループ研究発表⑤</p> <p>第7回 個人・グループ研究発表⑥</p> <p>第8回 個人・グループ研究発表⑦</p> <p>第9回 個人・グループ研究発表⑧</p> <p>第10回 個人・グループ研究発表⑨</p> <p>第11回 個人・グループ研究発表⑩</p> <p>第12回 個人・グループ研究発表⑪</p> <p>第13回 個人・グループ研究発表⑫</p> <p>第14回 文集づくり</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
授業概要	各回担当者による発表と、それを踏まえたディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	対象テキスト及びそれに関する文献を読み、自分なりの意見をもって授業に臨むこと。
テキスト	授業中に適し指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	前期の学習を活かし、受講者の問題意識に沿って様々な対象を扱っていきます。
評価方法	発表（30％）、授業中の取り組みや発言（20％）、期末レポート（50％）によって評価する。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で文学研究の方法を学びます。授業の後半では、卒業研究に向けて各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学研究の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 文学研究の方法を学ぶ①：調べ方を調べる</p> <p>第3回 文学研究の方法を学ぶ②：作者と語り手</p> <p>第4回 文学研究の方法を学ぶ③：語り・叙法</p> <p>第5回 文学研究の方法を学ぶ④：語り・叙法</p> <p>第6回 文学研究の方法を学ぶ⑤：身体と空間</p> <p>第7回 文学研究の方法を学ぶ⑥：ジェンダー</p> <p>第8回 文学研究の方法を学ぶ⑦：アダプテーション</p> <p>第9回 文学研究の方法を学ぶ⑧：アダプテーション</p> <p>第10回 文学研究の方法を学ぶ⑨：論文を読んでみよう</p> <p>第11回 文学研究の方法を学ぶ⑩：論文を読んでみよう</p> <p>第12回 卒業研究発表①</p> <p>第13回 卒業研究発表②</p> <p>第14回 卒業研究発表③</p> <p>第15回 卒業研究発表④</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（20%）、期末レポート（30%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究として各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学・アニメ等の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるように伝える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 論文の書き方を学ぶ</p> <p>第3回 卒業研究構想発表会①</p> <p>第4回 卒業研究構想発表会②</p> <p>第5回 卒業研究構想発表会③</p> <p>第6回 卒業研究構想発表会④</p> <p>第7回 文献購読：受講者の関心に合わせて選定</p> <p>第8回 卒業研究中間報告①</p> <p>第9回 卒業研究中間報告②</p> <p>第10回 卒業研究中間報告③</p> <p>第11回 卒業研究中間報告④</p> <p>第12回 卒業研究相談会</p> <p>第13回 卒業研究相談会</p> <p>第14回 卒業研究プレゼン</p> <p>第15回 卒業研究プレゼン</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（50%）及び議論への貢献度（20%）、卒業研究（30%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>近世書き言葉標準体と話し言葉との交渉の様相を観察する。</p> <p>I 古典文学の近世語訳の文章体について文体に馴れる</p> <p>II 近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる</p> <p>III 古典語と近代語との違いに注意して意味を掴む</p>
授業計画	<p>第1回 国学者の古典研究</p> <p>第2回 本居宣長・鈴木朗・栗田直政の系譜について</p> <p>第3回 洒落本の資料性について</p> <p>第4回 『源氏遠鏡』について</p> <p>第5回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読①）</p> <p>第6回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読②）</p> <p>第7回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読③）</p> <p>第8回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読④）</p> <p>第9回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑤）</p> <p>第10回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑥）</p> <p>第11回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑦）</p> <p>第12回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑧）</p> <p>第13回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑨）</p> <p>第14回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑩）</p> <p>第15回 『源氏遠鏡』を読む（学生による輪読⑪）</p>
授業概要	尾張国の国学者栗田直政が訳した『源氏遠鏡』を雅俗対照させて読みます。古典語・古典文法について復習し、近代語法について新たに学習します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	影印資料に馴れるということを当面の目標として、授業前に読みの練習をしてください。また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください。
テキスト	影印資料を印刷して渡します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください。
評価方法	授業への参加度(50%)と課題レポートの作成(50%)とで総合的に評価します。
参考文献	野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店） 杉本つとむ『東京語の歴史』（講談社学術文庫）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世庶民の話し言葉について理解することをテーマとして、以下3点目標を定める。 I いわゆる戯作文学について文体に馴れる II 近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる III 言語の東西差について理解を深める
授業計画	第1回 近世語の資料の諸相 第2回 江戸語と関東方言 第3回 洒落本の資料性 第4回 『遊子方言』について 第5回 『遊子方言』を読む 一授業担当者による講読① 第6回 『遊子方言』を読む 一授業担当者による講読② 第7回 『遊子方言』を読む 一授業担当者による講読③ 第8回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈① 第9回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈② 第10回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈③ 第11回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈④ 第12回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈⑤ 第13回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈⑥ 第14回 『遊子方言』を読む 一学生による解読・解釈⑦ 第15回 『遊子方言』まとめ
授業概要	庶民層の江戸語が観察される『遊子方言』を採り上げ、版本影印資料により読み進めます。国語資料講読 I で取り扱う『雑兵物語』との資料的共通性についても比較検討します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業前に読みの練習をしてください。また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください。
テキスト	影印資料を印刷して渡します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください。
評価方法	授業への参加度(50%)と発表の成果(50%)とで総合的に評価します。
参考文献	野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店） 杉本つとむ『東京語の歴史』（講談社学術文庫）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。大学におけるNIEを実践します。
授業計画	<p>第1回 前期 導入</p> <p>第2回 チーム別の企画討論</p> <p>第3回 言語学レッスン1 練習問題を解いてみよう</p> <p>第4回 レッスン1 グループ学習 記事の選定</p> <p>第5回 言語学レッスン2 練習問題を解いてみよう 言葉の意味 記事の選定</p> <p>第6回 レッスン2 グループ討論</p> <p>第7回 レッスン3 言葉遊びの言語学 担当記事の要約とキーワード付け学習</p> <p>第8回 レッスン3 グループ作業と発表 担当記事の要約とキーワード付け学習</p> <p>第9回 レッスン4 曖昧な文</p> <p>第10回 レッスン4 グループ学習と資料収集</p> <p>第11回 レッスン4 資料整理と発表レジュメの作成</p> <p>第12回 レッスン4 グループ別発表と討論</p> <p>第13回 グループテーマの検討</p> <p>第14回 テーマ別資料収集</p> <p>第15回 グループ間で討論</p>
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめてみましょう。新聞記事の学習と指定教材学習を前期は行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられる課題について資料整理をして考えを深めてください。また、研究室でグループワークをする時間を設けます。
テキスト	前年度の報告書配布。 『日本語を分析するレッスン』大修館書店(最初の授業で指示する)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	参加者の話し合いでグループ別に担当テーマを決め、演習成果報告書を作成したいと思います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度(100%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学演習ⅡA(10761)に続いて、ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。
授業計画	<p>第1回 後期 導入 夏期課題の提出と確認</p> <p>第2回 チーム別の編集討論</p> <p>第3回 章別の修正作業1</p> <p>第4回 章別の修正作業2 グループ学習</p> <p>第5回 章別の修正作業3</p> <p>第6回 章別の修正作業4 グループ討論</p> <p>第7回 最終原稿の制作1</p> <p>第8回 最終原稿の制作2 グループ作業と発表</p> <p>第9回 出稿作業の確認</p> <p>第10回 テキスト レッスン14 漫才の言葉1 中川家 チュートリアル パイキング</p> <p>第11回 テキスト レッスン14 漫才の言葉2 サンドイッチマン パンクブービー</p> <p>第12回 報告書 校正作業</p> <p>第13回 テキスト レッスン15 外国語と日本語1</p> <p>第14回 テキスト レッスン15 外国語と日本語2</p> <p>第15回 報告書の受け取りと発送</p>
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめてみましょう。後期は報告書制作のための学習と編集作業を中心に行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられる課題について資料整理をして考えを深めてください。また、研究室でグループワークをする時間を設けます。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参加者の話し合いでグループ別に担当テーマを決め、演習成果報告書を作成したいと思います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度（100%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
北口 己津子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館の諸問題や図書館利用の最初の入り口となる絵本をテーマにする。その理解をはかり、授業内での話し合いを通じ個々人の問題意識を持つ。		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	図書館に関する昨年の出来事について	
	第3回	レポートの書き方	
	第4回	CiNii等の使い方	
	第5回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い①	
	第6回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い②	
	第7回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い③	
	第8回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い④	
	第9回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑤	
	第10回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑥	
	第11回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑦	
	第12回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑧	
	第13回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑨	
	第14回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑩	
	第15回	前期のまとめ	
授業概要	レポート執筆の基礎と図書館界で話題になっている出来事について発表を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習・復習60分		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	話し合いには積極的に参加すること。		
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）		
参考文献			
備考	後期開講の図書館文化論演習Bと対をなす科目である。		

講義科目名称：図書館文化論演習B（10783）

授業コード：10783

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
北口 己津子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館の諸問題や図書館利用の最初の入り口となる絵本をテーマにする。その理解をはかり、個々人の問題意識を持つ。その問題意識を深めて卒業論文を書くことを目的とする。		
授業計画	第1回	卒業研究の進め方①テーマの決め方	
	第2回	卒業研究の進め方②スケジュールの立て方	
	第3回	卒業研究の進め方③書き進めるために	
	第4回	文献リストの作り方	
	第5回	卒業研究中間報告①	
	第6回	卒業研究中間報告②	
	第7回	卒業研究中間報告③	
	第8回	卒業研究中間報告④	
	第9回	卒業研究中間報告⑤	
	第10回	卒業研究中間報告⑥	
	第11回	卒業研究中間報告⑦	
	第12回	卒業研究中間報告⑧	
	第13回	卒業研究中間報告⑨	
	第14回	卒業研究中間報告⑩	
	第15回	後期のまとめ	
授業概要	各自の卒業論文中間報告で進める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習・復習60分		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生全員が卒業論文提出を目標とする。卒論は、図書館に関するもの、絵本に関するものどちらでもよい。またそれ以外のテーマの場合は担当教員とよく相談することとする。		
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（卒業論文・卒業制作）（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）		
参考文献			
備考	前期開講の図書館文化論演習Aと対をなす科目になります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 前期のゼミの流れを確認する。	
	第2回	発表資料の書き方・発表の仕方 演習でのゼミの発表資料の書き方や発表の仕方などを確認する。	
	第3回	レポート・論文の書き方 短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。	
	第4回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第5回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第6回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第7回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第8回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第9回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第10回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第11回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第12回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第13回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第14回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第15回	卒業論文構想発表 卒業論文の執筆を予定している者の構想を発表する。	
授業概要	前期は、教育に関する基本事項をおさえるため、全員で文献を読み解いていく（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。		
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。		
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）		
参考文献	その都度紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 後期の予定を確認する。	
	第2回	卒論構想発表① 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第3回	卒論構想発表② 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第4回	個人研究発表① 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第5回	個人研究発表② 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第6回	個人研究発表③ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第7回	個人研究発表④ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第8回	個人研究発表⑤ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第9回	個人研究発表⑥ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第10回	卒論中間発表① 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。	
	第11回	卒論中間発表② 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。	
	第12回	個人研究発表⑦ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第13回	個人研究発表⑧ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第14回	個人研究発表⑨ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第15回	まとめ 1年間のゼミのまとめを行う。	
授業概要	後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人で行う予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。		
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。		
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）		
参考文献	その都度紹介する。		
備考			

講義科目名称：書道（10800）

授業コード：10801 10802

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職必修（教科：国語）
担当教員			
我彦 芳柳			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 楷書・行書・草書・隸書・仮名の代表的な古典を臨書し、学内展示作品を作成 2. 篆書を学び雅印作成 3. 国語科の書写指導に必要な実技 4. 現代の書・生活の書・実用書の作成		
授業計画	第1回	用具・用材について	
	第2回	楷書の基本用筆確認	
	第3回	書写から書道入門	
	第4回	漢字の変遷と書体・楷書の成立	
	第5回	唐の四大家を学ぶ（1）孔子廟堂碑	
	第6回	唐の四大家を学ぶ（2）九成宮醴泉銘	
	第7回	唐の四大家を学ぶ（3）雁塔聖教序	
	第8回	唐の四大家を学ぶ（4）顔氏家廟碑	
	第9回	北魏の書を学ぶ（1）牛けつ造像記	
	第10回	北魏の書を学ぶ（2）鄭羲下碑	
	第11回	楷書の小階 隅寺心教	
	第12回	楷書の小階 隅寺心教	
	第13回	行書の特徴を学ぶ	
	第14回	行書の古典を学ぶ（1）蘭亭序	
	第15回	行書の古典を学ぶ（2）争坐位文稿	
	第16回	篆書を学ぶ 泰山刻石	
	第17回	日本の書三筆三跡を学ぶ	
	第18回	仮名の用筆法を学ぶ	
	第19回	平仮名と変体仮名を学ぶ	
	第20回	平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ	
	第21回	仮名の古典を学ぶ（1）高野切第三種	
	第22回	仮名の古典を学ぶ（2）高野切第一種	
	第23回	仮名の古典を学ぶ（3）寸松庵色紙	
	第24回	学内展示作品仕上げ	

	第25回 草書を学ぶ 真草千字文
	第26回 隷書を学ぶ
	第27回 漢字仮名交じりの書を学ぶ
	第28回 学内展示作品の鑑賞
	第29回 手紙文・実用書を学ぶ
	第30回 書道史年表中心にまとめ
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う。
実務経験及び授業の内容	書道教室での実務経験及び小中高の書道展での審査経験を生かし、作品制作の指導を行う。
時間外学習	休日等を利用し、美術館・博物館・展覧会等の鑑賞に行くこと。
テキスト	必要に応じてプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1. 実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 2. 学内展示作品（修了作品）作成に費用2,200円位必要です。
評価方法	1. 作品の評価 2. 授業の参加度 3. 学内展示作品の作成
参考文献	古典法帖
備考	①書道道具(既存の物で可)を1回目から持参下さい。 ②用具・用材はさわらび利用

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石黒 志保			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の伝統はどのように生じ、形成されてきたのか、を考えます。今、自身の身近にある文化や考え方や似通っているのか、つながっているのか。いろいろな時代の資料を読みながら、一緒に考えていきましょう。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス「伝統について」</p> <p>第2回 川端康成『美しい日本の私』を読む</p> <p>第3回 『古今和歌集』を読む</p> <p>第4回 『新古今和歌集』を読む</p> <p>第5回 藤原俊成『古来風躰抄』を読む</p> <p>第6回 慈円『愚管抄』を読む①一言葉について</p> <p>第7回 慈円『愚管抄』を読む②一道理について</p> <p>第8回 西行『山家集』を読む</p> <p>第9回 芭蕉『おくのほそ道』を読む</p> <p>第10回 世阿弥『風姿花伝』を読む</p> <p>第11回 能のDVD鑑賞</p> <p>第12回 「もののあはれ」とは①一本居宣長『石上私淑言』を読む</p> <p>第13回 「もののあはれ」とは②一本居宣長『紫文要領』を読む</p> <p>第14回 柳宗悦『美の法門』を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	毎週、違う資料を読み、日本の伝統とは何か、を通史的に考えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次週に読む資料は、なるべく前週に配布しますので読んで予習をしてきてください。
テキスト	プリント配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「授業のテーマ」にもあげましたが、資料のひとつひとつを読み解きながら、自身の身近にそのような文化や思想があるのか、自分はどのように考えるのか、を大事にしたいと思います。
評価方法	コメントシート（80%）と授業の参加度（20%）で評価します。
参考文献	適宜、紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
田中 潤			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、前近代の公家・武家社会において、政治・制度・儀式・法令・慣習など多様な分野におよぶ知識・先例と、それを研究する学問とされる。いわば、前近代の人々の衣食住の総体を規定してきた要素を学ぶものである。古代から伝えられてきた歴史資料や古典籍、あるいは博物館・美術館などに収蔵される美術品が生み出され、実際に用いられてきた様子を知る上で、有職故実の知識は不可欠である。この講義では、多方面にわたる有職故実の分野の中でも、公家・女房装束を中心に紹介し、実際の着装を通じて理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（有職故実とはなにか）</p> <p>第2回 令和に伝えられた公家服飾（令和の即位礼の装束）</p> <p>第3回 近代の即位の礼と装束の変化</p> <p>第4回 日本古代服飾史①（飛鳥・白鳳時代）</p> <p>第5回 日本古代服飾史②（奈良時代・正倉院宝物にみる服飾）</p> <p>第6回 日本古代服飾史③（平安時代①：彫刻資料にみる服飾）</p> <p>第7回 日本古代服飾史④（平安時代②：文献資料にみる服飾）</p> <p>第8回 日本古代服飾史⑤（平安時代③：絵画資料に見る服飾）</p> <p>第9回 日本古代服飾史⑥（平安時代④：かさねの色目）</p> <p>第10回 日本古代服飾史⑦（平安時代⑤：有職織物）</p> <p>第11回 日本古代服飾史⑧（平安時代⑥：有職文様）</p> <p>第12回 日本古代服飾史⑨（装束の変遷と衣紋道）</p> <p>第13回 着装体験と装束雛形の作成①</p> <p>第14回 着装体験と装束雛形の作成②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	配布資料とパワーポイントなどを用い、映像資料、着装などを踏まえながら理解を深める。
実務経験及び授業の内容	装束の着装指導や有職故実関係資料の整理で得た実務経験を踏まえて指導を行う。
時間外学習	日本古代の歴史の流れ確認し、「伝統的な」日本の衣装に目を留めよく観察すること。
テキスト	プリントを配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	着装や、個人・グループでも作業を行うので、積極的な参加を希望します。
評価方法	試験
参考文献	鈴木敬三『有職故実図典』吉川弘文館 1995
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、韓国の民俗文化をテーマとして取り上げ、その諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	比較民俗学	
	第4回	韓国と儒教社会	
	第5回	韓国の親族組織	
	第6回	韓国の祖先祭祀	
	第7回	韓国の通過儀礼	
	第8回	韓国の年中行事	
	第9回	韓国の衣食住	
	第10回	韓国の民間信仰	
	第11回	韓国の民俗芸能	
	第12回	韓国の生業	
	第13回	韓国の宗教	
	第14回	韓国の伝統的町並み	
	第15回	日本・朝鮮半島・琉球列島の比較民俗	
授業概要	民俗学で扱う内容のうち、本講義では韓国における民俗文化を、日本の民俗文化と比較しながら講義を展開する。現代の韓国社会との関わりをテキストを通して学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各地の博物館や資料館には、民具などの民俗学に関わる資料などが、しばしば展示されています。休日を利用して、それらの展示を観覧する習慣を身につけてください。		
テキスト	松本邦彦・岩鼻通明『異郷と同胞 日本と韓国のマイノリティー』開講時に百円で頒布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。柳田国男らの基本的な文献は文庫本で出ている。板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい。		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート（出典は必ず明示すること）を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献	附属図書館にある韓国関係文献およびCiNiiで学術論文を検索して関連論文を読むこと。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
千葉 正昭			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	山形の土壌が生んだ作家・作品を、その生涯及びテーマを絡めて検討していく。その過程で作品様式の独自性を理解していく。出来ればこの作品様式の中に、自然、風土、歴史が潜んでいることを理解できるようになれば有難いと考えている。
授業計画	<p>第1回 山形の文学概説／教員解説</p> <p>第2回 大橋乙羽／教員解説</p> <p>第3回 高山樗牛／教員解説</p> <p>第4回 田沢稲舟／学生発表＋教員解説</p> <p>第5回 斎藤茂吉／学生発表＋教員解説</p> <p>第6回 浜田広介／学生発表＋教員解説</p> <p>第7回 真壁仁／学生発表＋教員解説</p> <p>第8回 國分一太郎／学生発表＋教員解説</p> <p>第9回 大熊信行／学生発表＋教員解説</p> <p>第10回 丸谷才一／学生発表＋教員解説</p> <p>第11回 藤沢周平／学生発表＋教員解説</p> <p>第12回 井上ひさし／学生発表＋教員解説</p> <p>第13回 森万紀子／学生発表＋教員解説</p> <p>第14回 安部公房「砂の女」その1／学生発表＋教員解説</p> <p>第15回 安部公房「砂の女」その2／教員解説＋レポート提出</p>
授業概要	各々の作家・作品を初回の授業で解説。該当する作品は、前週に印刷したものを配布する。グループで発表するので余り硬くならないで欲しい。こんな興味深い作家がいたのかという発見があれば、嬉しい。図書館にない資料でもお貸しすることを考えている。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>1 翌週の授業内容を指定するので、問題点を考えておくこと。</p> <p>2 授業を踏まえて、テーマをもう一度ノートに整理しておくこと。</p> <p>3 授業に関わりのあった別の作品等を調べておくこと。</p>
テキスト	印刷物を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	山形県出身者にこれほどの人がいたのかという驚きがあれば有難い。風土の特殊性は、結構興味深いものと理解されるのではないかと。授業終了後に希望者たちと文学散歩が出来れば嬉しいと考えている。
評価方法	発表内容10%、質疑応答10%、レポート80%。
参考文献	その都度教室で指示する。
備考	第一回目の授業が結構重要である。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	あるメディアから他のメディアへ移植される「アダプテーション」という現象から、現代文化を歴史的に読みときます。到達目標は以下の二つです。①アダプテーションという見方を理解する。②現代文化を歴史的な視点から相対的に捉える力をつける。		
授業計画	第1回	ガイダンス：アダプテーションとは何か	
	第2回	『ちはやふる 上の句』（2016年）を見る	
	第3回	漫画『ちはやふる』から青春映画『ちはやふる』へ	
	第4回	ライトノベルからアニメへ：『涼宮ハルヒの憂鬱』	
	第5回	『君の名は』から『君の名は。』へ	
	第6回	『ゴジラ』から『シン・ゴジラ』へ	
	第7回	『日本沈没』から『日本沈没－希望のひと－』へ	
	第8回	映画『伊豆の踊子』（1963年）を見る	
	第9回	『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』へ、そして『伊豆の踊子』へ	
	第10回	「文豪」から「聖地巡礼」へ：『文豪ストレイドッグス』と『文豪とアルケミスト』	
	第11回	『戦慄怪奇ファイルコワすぎ！ FILE04 真相！トイレの花子さん』（2012年）を見る ※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。	
	第12回	怪談からJホラーへ：「事実性」と赤い服の女 ※ホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。	
	第13回	「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：その背景	
	第14回	「東京オリンピック」から「東京2020オリンピック」へ：映像と観客	
	第15回	まとめ	
授業概要	アダプテーションという現象を考えることで、現代文化をただ「新しい」と見るのではなく、歴史の中に位置付けてみたいと思います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。		
テキスト	プリントを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	興味のある作品を今までとは異なる視点から考える機会にしましょう。毎授業でリアクションペーパーに答える時間を取っているの、積極的に意見を発信してください。		
評価方法	授業の参加（20%）及び議論への貢献（10%）、レポート（70%）		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考	第11回、第12回にホラー作品を扱います。苦手な方は出席を控えてください。欠席しても成績には影響しません。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。</p> <p>この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。</p>		
授業計画	第1回	<p>日本語の中のインドの言葉 音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう</p>	
	第2回	<p>七福神の成立 インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか</p>	
	第3回	<p>カレーライス インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり</p>	
	第4回	<p>無常について いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方</p>	
	第5回	<p>苦と解脱 四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法</p>	
	第6回	<p>善悪の基準 十悪業と四摂法。法律・倫理・美学・宗教でどこが異なるのか</p>	
	第7回	<p>自己とは何か コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために</p>	
	第8回	<p>業と来世 輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか</p>	
	第9回	<p>世界の始まりと終わり 世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって</p>	
	第10回	<p>先祖と神仏 餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか</p>	
	第11回	<p>愛と慈悲 ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁</p>	
	第12回	<p>心とは何か 心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心</p>	
	第13回	<p>身分と差別 カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくなるのか</p>	
	第14回	<p>議論と論理 六師外道とアショーカ王。対立を乗り越える話し合いの進め方</p>	
	第15回	<p>仏教と女性 比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか</p>	
授業概要	<p>毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回まで考えてきて、出席カードに書いてもらいます。優れた回答は発表します。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思っています。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。</p>		
時間外学習	<p>授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。</p>		
テキスト	<p>プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるような心がけて進めていきたいと思っています。</p>		
評価方法	<p>毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。</p>		
参考文献	<p>授業中に適宜紹介します。</p>		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
村瀬 桃子			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。 2. 2回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。		
授業計画	第1回	オリエンテーション この講義の内容や進め方、評価の仕方等について説明する。	
	第2回	貧困問題と教育 「相対的貧困率」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。	
	第3回	奨学金の問題 主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。	
	第4回	若者の進路の問題 若者、特に若い女性の問題のひとつとして、「生理の貧困」について知る。	
	第5回	障がいをもつ子どもたちの就労問題 障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。	
	第6回	いじめ問題 毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。まず、現場の取り組みを知り、いじめ防止対策推進法や第三者委員会等を知り、すべての子どもが安全に学ぶ権利を保障するための手立てを考える。	
	第7回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第8回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第9回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第10回	罪を犯した少年たち 少年犯罪は実際のところ、増え続けているのか、凶悪化しているのか。そして罪を犯した少年はどのような矯正教育を受けているのかについて知る。	
	第11回	児童虐待の問題 年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知る。	
	第12回	日本における外国ルーツの子どもの問題 日本以外にルーツを持つ子どもの問題について知り、多文共生社会を考える。	
	第13回	幼児期の子ども 待機児童問題など、保育の「質」より「量」に目が向きがちだが、子どもたちに豊かな保育環境を整えるためには「質」の保証が欠かせない。ある園の保育内容を見ることで、子どもの育ちには、何が必要かを考える。	
	第14回	発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。	
	第15回	発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。	
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い2回発表する（中間・最終）。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュース等を通じ、日頃から教育問題、子ども・青少年問題に関心を持つようにする。発表に向けて、自主的に準備を進めておく。		
テキスト	毎回、プリントを配布、テキストは使用しない。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。		
評価方法	毎回の感想（30%）と発表内容（1回分35%×2回＝70%）で評価する。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎（21） 山田 彩起子（22）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>原組：前半はかな文字の基礎を固める。後半は、近世文書で使われる書体の読解力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。近世から近代を専門とする（しようとする）人向け。</p> <p>山田組：前半は同じテキスト（かな文字）を使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。古代から中世を専門とする（しようとする）人向け。</p>
授業計画	<p>第1回 くずし字読解のためのガイダンス、クラス分け</p> <p>第2回 江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）</p> <p>第3回 女今川を読む－「かな」の練習（2）</p> <p>第4回 ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（3）</p> <p>第5回 江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（4）</p> <p>第6回 手代の式目を読む－「かな」の練習（5）</p> <p>第7回 小まとめ</p> <p>第8回 宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）</p> <p>第9回 交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）</p> <p>第10回 交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）</p> <p>第11回 交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）</p> <p>第12回 離縁状を読む</p> <p>第13回 結婚・離婚に関する文書を読む</p> <p>第14回 奉公人請状を読む</p> <p>第15回 借用証文を読む</p>
授業概要	原組（近世文書）、山田組（かな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりとやって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずですよ。
評価方法	期末試験。全体で3問。1問目は初見のかな文字。2問目はテキスト終了範囲から1問。3問目はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1、江戸時代の古文書の読解力を向上させる 2、当時の庶民の生活や文化について理解できるようになる
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。</p> <p>第2回 江戸時代の版本を読む1－往来物 実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、最初に、江戸時代の人たちが寺子屋で使っていた教材を読みます。</p> <p>第3回 江戸時代の版本を読む2－往来物 いろいろな種類の往来物に触れます。</p> <p>第4回 江戸時代の版本を読む3－江戸の名所記と番付</p> <p>第5回 江戸時代の版本を読む4－草双紙を眺めよう</p> <p>第6回 庶民の一生（1）通過儀礼に関する記録を読む 婚礼の献立の記録や子どものお祝いの記録などを 읽습니다</p> <p>第7回 庶民の一生（2）宗門人別帳を読む</p> <p>第8回 庶民の一生（3）離縁状と人別送り状</p> <p>第9回 庶民の一生（4）若者仲間の記録を読む</p> <p>第10回 村の事件簿（1）村掟を読む 村で決めた定めごとを読み、江戸時代の村の様子を見てみます</p> <p>第11回 村の事件簿（2）村の訴訟とさまざまな願書 村の公務にかかわって作成された帳簿から、人相書きや村で起きた事件をとりあげます</p> <p>第12回 村の暮らし（1）商いと金融 村びとの暮らし向きにかかわる文書、領収書や借金証文などを 읽습니다</p> <p>第13回 村の暮らし（2）わざとまじない</p> <p>第14回 村の暮らし（3）楽しみの世界</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	古文書の読解を通して、江戸時代の庶民生活の諸相を浮き彫りにしたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解読用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60％）と期末レポート（40％）で評価します。
参考文献	
備考	質疑応答等は、メール等で行います。

講義科目名称：日本古代社会の歴史（11131）

授業コード：11131

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。それによってより深く古代史を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN～日本列島のすがた～</p> <p>第2回 倭人の登場</p> <p>第3回 古代国家の形成</p> <p>第4回 東アジアの中の日本</p> <p>第5回 天皇号の成立</p> <p>第6回 倭国から日本へ</p> <p>第7回 律令国家支配の成立</p> <p>第8回 飛鳥の様子</p> <p>第9回 藤原京を探す</p> <p>第10回 藤原京の復元</p> <p>第11回 律令国家と地方</p> <p>第12回 律令国家と文化</p> <p>第13回 平安遷都</p> <p>第14回 古代の東北地方</p> <p>第15回 古代国家と中世社会</p>
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本中世社会の歴史（11141）

授業コード：11141

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
菌部 寿樹			
同時開講日本史概説2※	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本中世史の基礎的な知識を得ること。 2. 現代に立脚して長いタイムスパンで歴史をとらえる眼を養い、歴史的な思考方法を会得すること。
授業計画	<p>第1回 中世とは何か</p> <p>第2回 中世の権力者と天皇（上）</p> <p>第3回 中世の権力者と天皇（下）</p> <p>第4回 中世人の食生活（上）</p> <p>第5回 中世人の食生活（下）</p> <p>第6回 中世民衆の身分と名前（上）</p> <p>第7回 中世民衆の身分と名前（下）</p> <p>第8回 中世人の経済観念（上）</p> <p>第9回 中世人の経済観念（下）</p> <p>第10回 中世人の時間観念（上）</p> <p>第11回 中世人の時間観念（下）</p> <p>第12回 中世法の特質（上）</p> <p>第13回 中世法の特質（下）</p> <p>第14回 中世の刑罰と社会（上）</p> <p>第15回 中世の刑罰と社会（下）</p>
授業概要	通常の概説のように時系列を重視するのではなく、研究上の問題点や興味深い話題を提供する形で講義をします。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義後、レジュメに示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。
テキスト	必要に応じて、プリントや参考資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方通行とならない講義を心がけますので、積極的に授業に参加してください。また毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）
参考文献	毎回、講義内容に即した参考文献を示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会を理解する上で歴史的なものの見方が欠かせないことを理解できるようになる。		
授業計画	第1回	ガイダンス 日本近世史とは何か 歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します。	
	第2回	国境をとりはずして考える日本史（1） 東アジアのなかの日本 日本列島の歴史を、東アジアの広がりの中で考えてみます。	
	第3回	国境をとりはずして考える日本史（2） 蝦夷地をとりまく北方の交易世界 蝦夷地を北東アジアや北太平洋地域のなかに位置づけ、日本列島の歴史を複線的にとらえ直します。	
	第4回	世界のなかの近世日本 江戸時代の対外関係 国境はどのようにつくられるのか 江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。	
	第5回	近世の支配体制（1） 江戸時代の統治のしくみと社会制度 江戸時代の政治体制と、それを支えていた社会制度について説明します。	
	第6回	近世の支配体制（2） 江戸時代の支配の特質 中世の武家政権と近世の武家政権では、領主の支配のあり方にどのような違いがみられたのか、江戸時代の領主と百姓の関係はどのようなものだったのか、について考えます。	
	第7回	近世の支配体制（3） 近世の統治の理念 江戸幕府（徳川政権）は約260年もの長い期間にわたって支配を続けることができたのか、幕府の正当性・正統性はどこにあったのか、検討します。	
	第8回	近世の民衆運動（1） 百姓一揆の作法 江戸時代の人びとの結びつき方や行動様式の特徴を、百姓一揆をとおして考えます。	
	第9回	近世の民衆運動（2） 百姓一揆の思想（百姓一揆をささえる社会規範と集合心性） 江戸時代の百姓たちの法意識、社会規範について検討します。	
	第10回	近世の文化（1） 文字の普及と読み書き能力 江戸時代の社会の特質を、文字の普及や役割という観点から考えてみます。	
	第11回	近世の文化（2） 文字の習得と江戸時代の教育 江戸時代の庶民教育とその意義について考えてみます。	
	第12回	近世の村と地域（1） 村の安全保障 江戸時代の人びとは、自分たちの生活と生命をどのように守っていたのでしょうか。命を守る仕組みの発展という側面から、江戸時代の社会を見直します。	
	第13回	近世の村と地域（2） 村定の世界 江戸時代のさまざまな村定から、村の治安維持・秩序維持の特質について検討します。	
	第14回	近世の村と地域（3） 国訴と郡中議定－近世後期の地域社会 江戸時代の村の自治が、近代に向けてどのように展開していったか、考えます。	
	第15回	近世の特質 まとめ	
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点や近年注目されているトピックを取り上げて講義します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。資料はTeamsのファイルに入れます。あらかじめダウンロードしてください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の理解度をはかるために、コメントシートを毎回提出してもらいます。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。		
評価方法	期末レポート60%、コメントシートによる評価40%		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。</p>
授業計画	<p>第1回 史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？</p> <p>第2回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第3回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第4回 稲作の起源と日本人起源論</p> <p>第5回 柳田國男と日本民俗学（ビデオ）</p> <p>第6回 いくつもの日本（東と西の日本文化）</p> <p>第7回 いくつもの日本（北と南の日本文化）</p> <p>第8回 日本国の成立と「日本人」</p> <p>第9回 伊波普猷と沖縄学（ビデオ）</p> <p>第10回 被差別と伝統文化</p> <p>第11回 都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）</p> <p>第12回 国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）</p> <p>第13回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第14回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第15回 日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）</p>
授業概要	<p>日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること。</p>
テキスト	<p>すべてプリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。</p>
評価方法	<p>数回（6回程度）の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。</p> <p>約6回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。</p>

参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	